

学則変更の趣旨等を記載した書類（本文）

目次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容	2
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性	2
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	6
(ア) 教育課程の変更内容	6
(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	10
(ウ) 教員組織の変更内容	15
(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容	17

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

立命館大学は、「自由と清新」を建学の精神として設立され、第二次世界大戦後に「平和と民主主義」を教学理念として定めている。さらに2006（平成18）年には学校法人立命館の理念として「立命館憲章」を制定した。これらに基づき本学大学院では、大学院学則に「立命館建学の精神および教学理念に則り、学術の理論および応用を教授研究し、その深奥をきわめ、または高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。」ことを定めている。

また、本学では2030（令和12）年に向けた学園ビジョン達成に向けたR2030チャレンジ・デザインにおいて、「新たな価値を創造する次世代研究大学」及び「イノベーション・創発性人材を生み出す大学」を二つの柱に掲げ、研究と教育の拡大的再結合を図るべく、3つの重点目標と5つのチャレンジ・デザインを設定し、立命館憲章の具現化を図っている。

このたび立命館大学大学院では、現在の社会からの要請に応えるとともに、高等教育機関に求められている責務を果たすため、2026（令和8）年4月よりデザイン・アート学研究科デザイン・アート学専攻修士課程を新設するとともに、既存の法学研究科博士課程前期課程、理工学研究科博士課程前期課程及び人間科学研究科博士課程前期課程においてもカリキュラム改革に伴い、収容定員の変更を以下のとおり行う。

研究科	専攻	課程	変更前		変更後	
			入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員
法学研究科	法学専攻	博士課程前期課程	<u>60 人</u>	<u>120 人</u>	<u>50 人</u>	<u>100 人</u>
理工学研究科	基礎理工学専攻	博士課程前期課程	<u>50 人</u>	<u>100 人</u>	<u>70 人</u>	<u>140 人</u>
	電子システム専攻	博士課程前期課程	<u>140 人</u>	<u>280 人</u>	<u>155 人</u>	<u>310 人</u>
	機械システム専攻	博士課程前期課程	<u>140 人</u>	<u>280 人</u>	<u>155 人</u>	<u>310 人</u>
	都市システム専攻 (旧環境都市専攻)	博士課程前期課程	<u>120 人</u>	<u>240 人</u>	<u>145 人</u>	<u>290 人</u>
人間科学研究科	人間科学専攻	博士課程前期課程	<u>65 人</u>	<u>130 人</u>	<u>75 人</u>	<u>150 人</u>
デザイン・ アート学研究科	デザイン・ アート学専攻	修士課程	-	-	<u>20 人</u>	<u>40 人</u>
立命館大学大学院の総数			<u>2,007 人</u>	<u>4,394 人</u>	<u>2,102 人</u>	<u>4,584 人</u>

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

（１）法学研究科博士課程前期課程の収容定員減の必要性

法学研究科は法科大学院や公務研究科などとの関係性や、法曹及び公務員試験などによってその時々の役割や課題が変化してきた。法学部からの進学先として法科大学院の比重が高まり、法科大学

院発足後は定員60人に対して50%の充足を満たすことが難しい状況が続いている。他方で、ここ近年、企業の雇用形態として、メンバーシップ型雇用からジョブ型雇用への移行が見られ、法務部採用人事においても法領域における専門的な学修をつんでいることが評価される状況も見られる。このような状況に対応すべく、2025（令和7）年度からこれまでのコースを再編するなどのカリキュラム改革を行うとともに、2026（令和8）年度からは収容定員を現在の60名から10名減の50名定員に減じ、収容定員の適正化を行うこととした。法学研究科の教員組織は法学部を基礎とするため、収容定員を減ずる前と教員数には変化はなく、定員変更前の教育の方法及び履修指導の方法にも変化はない。コースの再編は、修士論文の執筆指導を中核に置いたプログラムであることをより明確化し、新たにライティング・リサーチ力を涵養する科目や、リーガル・プロフェッショナル・コースのビジネス・プログラムの科目を精選・再編成し、学生の進路希望に沿った内容を入れることで、定員変更前の教育課程を改善し、より充実した内容としていている。

（2）理工学研究科博士課程前期課程の収容定員増の必要性

立命館大学は「次世代研究大学」への新展開を目指し、社会共生価値の創造とイノベーションに取り組んでいる。大学の指針を研究活動の活性化を通じて転換している中、大学院の充実が重要なファクターである。理工学研究科は、質的及び量的な観点から、次世代研究大学の展開に沿った大学院の充実化を目指す。質的な充実化は、研究の高度化や学際化を通じて、博士課程後期課程の定員充足や博士学位取得者の輩出を行う。量的な充実化は、高度な専門知識を持つ人材の育成や博士課程後期課程への進学者の確保に向け、博士課程前期課程での人材確保と教学・研究活動の展開によって実現する。

日本の理工系高度人材が諸外国に比べて極めて少ない状況や、社会的ニーズが高まりつつあるデジタル分野やグリーン分野を鑑みた分野横断的な成長性を背景に、コモディティ化が進む博士課程前期課程における高度専門技術者の輩出を強化すべく、理工学研究科博士課程前期課程の定員の増加を行う。

【理工学研究科基礎理工学専攻】

理工学研究科基礎理工学専攻は、数理科学コースと物理科学コースにわけられ、数理科学コースでは、確率論や数理ファイナンス、さらには社会からのニーズに応えたデータサイエンス分野を取り入れた教育が展開されている。物理科学コースでは、現代物理学の基礎に加え、実践的な技術を学び、応用力を身につけることができる。とりわけデータサイエンス分野の人材育成が求められている中で、進学率が増加していることから、本専攻の魅力が高まっており、今後も多くの学生がこの分野を志望することが予測される【資料1】。これに対応するためにも定員を増加させることが必要である。定員増加により、より多くの高度な専門知識を持つ人材を育成でき、データサイエンス分野をはじめとする需要の高い分野で活躍できる人材を輩出することができる。これにより、本専攻の教育プログラムをさらに充実させ、社会のニーズに応えることができる。

【理工学研究科電子システム専攻】

電子システム専攻は、エレクトロニクス、集積回路、コンピュータ、ソフトウェア、情報通信に関連する広範な領域をカバーしており、現代社会を支える基盤技術を学ぶための重要な専攻である。特に、デジタル技術やグリーン分野の進展が加速する中、これらの分野における高度な専門技術者の需要が急増している【資料2】。本専攻においても、志願者数、入学者数ともに年々増加しており、定員の増加が不可欠である。定員増加により、志願者数の増加に対応し、進学希望者に対して適切な教育環境を提供することができ、情報系分野やデジタル技術に関心を持つ学生のニーズに応えるため、より多くの人材を受け入れる体制が求められる。

【理工学研究科機械システム専攻】

機械システム専攻は、機械創成工学、機械情報工学、ロボティクスといった先端分野に焦点を当て、高度な技術者を育成することを目的としている。特に、サステナビリティに関連する分野横断的な学びや、データサイエンスを機械工学へ活用する教育は、現在の社会的ニーズに非常にマッチしている【資料3】。また、ロボティクス分野においても、機械、情報、生命工学を融合した学びが求められており、技術的な革新が期待されている。志願者数も増加傾向にあり、入学者数も収容定員を超えている。本専攻では、定員増加により、さらに多くの高度技術者を社会に送り出すことができ、機械工学やロボティクス分野の発展に寄与することができる。

【理工学研究科都市システム専攻】

都市システム専攻は、環境や防災、都市デザインなど、現代社会の複合的な問題に対応するために、総合的な立場から学問を深める。特に、環境や都市問題に取り組む人材の需要が高まる中で、都市システム専攻は社会的に非常に重要な役割を担っている【資料4, 5】。近年、環境都市工学科の卒業生が進学する割合が増加しており、進学率は年々上昇している。進学率の増加に対応するために、定員の増加が不可欠である。特に、環境都市工学科や建築都市デザイン学科の卒業生からの進学が増えており、この傾向を維持するため必要がある。定員増加により、より多くの都市問題に対応できる人材を育成することができ、持続可能な社会の実現に向けて重要な貢献を果たすことができる。特に、都市設計や環境問題に取り組む専門的な技術と知識を持つ人材を輩出することは、社会にとって非常に重要である。

(3) 人間科学研究科博士課程前期課程の収容定員増の必要性

公認心理師制度は2017（平成29）年度から施行され、2022（令和4）年12月時点で69,229人が登録されている。2020（令和2）年度に実施された「公認心理師の活動状況等に関する調査」によると、公認心理師は保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働など、さまざまな分野で業務に従事しており、半数近くが複数の領域で働いていることが示されている。また、公認心理師は基本業務（心理アセスメント、心理支援、コンサルテーション、心理教育など）に加えて、勤務施設での多職種連携や地域の他機関連携にも関与している。このことから、公認心理師は多様な場面・状況に応じて柔軟かつ適切に役割を認識し能力を発揮する必要があり、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム等において重要な役割を担っていることが示唆されている。このような背景の中で、今後の公認心理師の

さらなる活躍を促進するためには、養成体制の強化が必要となっている【資料6】。

人間科学研究科においては、直近5年の志願者数が入学定員に対して平均255.4%となっており、内部進学者のみならず、他大学の学生や社会人、留学生の志願者も多く、社会からのニーズが非常に高い状況となっている。また、基礎となる学部である総合心理学部の収容定員の増も予定しており、心理学分野における学習・研究の学内外の幅広いニーズにこたえるためにも、人間科学研究科博士課程前期課程では5つの方針【資料7】に基づく教育・研究の充実の達成を目指しつつ、定員の増加を行う。

（4）デザイン・アート学研究科修士課程の新設の必要性

2026（令和8）年4月よりデザイン・アート学研究科デザイン・アート学専攻修士課程を新設する。

デザイン・アート学研究科は、デザイン学を一つのディシプリンとして捉え、歴史都市京都にある総合大学において、デザインやアートの領域を教育研究の対象とし、未来社会を感性豊かに創造する人材を育成するとともに、アートの技術と感性を基盤に自然科学と人文・社会科学を横断した研究領域を開拓し、新たなデザイン学を追究することを目的として設置するものである。

経済活動が多様化し複雑性を増す社会環境のもと、企業をはじめとした組織体の活動においては、自らの存在意義を再確立し、モノやサービスの機能・品質がコモディティ化している時代に独自性をもって取り組みの差別化を図り、国内外の社会的ニーズを生み出すための創造性あるイノベーション人材の育成が求められている。加えて、物質的欲求が満たされ、人間の欲求が高次化することによって文化的消費も多様化、細分化される傾向にあり、多様性や個性への理解がなければ独創的な企業・組織活動は展開できない状況にある。

この状況に対して、人間社会や自然科学への新たな見方や新たな価値観等の着想を、デザイン・アートの持つ多様な機能・効用から得ることが有用となる。さらに、デザイン・アートを通じて創発性を高めることは、企業活動のみならず、地域社会における文化の創造力を高め、尺度や価値観が多様化する人々の幸福度やウェルビーイングを高めることに繋がる。また、文化芸術立国の実現に向けた「文化芸術推進基本計画（第一期）」（2018（平成30）年）や経済産業省における「高度デザイン人材育成ガイドライン」（2019（令和元）年）の策定などに見られる政府の動向においても、デザイン・アートがもたらす美的価値及び社会的・経済的価値、またその思考特性を通じた価値創出と人材の育成への期待が高まっていることが分かる。

一方、現在のデザイン・アートを取り巻く状況において、①デザインの専門性の喪失、②デザイン思考におけるアートの観点の喪失、③デザインの定義の曖昧性、④日本の歴史と文化を踏まえたデザイン教育研究の不在、⑤デジタルネイティブのデザイン教育研究の不在、が社会的課題として認識できる。

以上の社会環境の変化とデザイン・アートの現況に関わる5つの社会的課題を踏まえ、本研究科では、現在から将来の社会情勢を展望しながら、アートの観点からデザインの位置づけを改め、空洞化しているデザイン学領域に責任をもち、日本の歴史と文化を踏まえた独自の視点とデジタルネイティブのデザイン教育によって、世界的なデザイン・アートのキャピタル・シティである京都において専門家を育成する。

立命館大学大学院はデザイン・アート学研究科修士課程の設置にともない、入学定員を20人、収容定員を40人増加する。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(7) 教育課程の変更内容

(1) 法学研究科博士課程前期課程

法学研究科においては2025（令和7）年度にカリキュラム改革を行い、一部カリキュラムを変更した。2016（平成28）年度から2024（令和6）年度までの旧カリキュラムにおいては4コース制をとっていたが、大学院生における公務員志望層の縮小や社会情勢の変化から、公務行政コースを廃止し、公務員受験者を受験希望に応じてリーガル・スペシャリスト・コースの公共法務プログラムと、法政リサーチ・コースの政治学プログラムの双方で受け入れる体制とした。その際に単なるコースの廃止と「法政」というまとめ方をするのではなく、政治学という大きなディシプリンとして独立して位置づけることで、今まで法学研究科で視野に入っていなかった政治学や政治系で公務員受験を検討している層を志願者に据えることができる仕組みとした。

2025（令和7）年度カリキュラム改革においては各ポリシーを維持し、ポリシーに沿った形での再編とするため、ポリシーの変更は行わないこととした（人材育成目標及び3ポリシーは【資料8】参照）。

2025年（令和7）度から一部授業科目において統廃合を行ったものの、法学研究科の科目数については2012（平成24）年度のカリキュラム改革において大幅な科目精選を行い、60科目をベースとしている。この開設科目数は研究指導科目を除いて1クラス6～10名規模のクラスとなり、授業規模は適切であるため、60科目のベースを維持する。

これらのことから、法学研究科においては教育課程として、収容定員を減じた場合であっても定員変更前と同等以上の内容が担保されているといえる。また、研究科横断科目は開講していないため、他研究科に及ぼす影響もない。

(2) 理工学研究科博士課程前期課程

理工学研究科は世界が抱える課題に対する深い知識や技術、見識を持って周囲をリードし、これを解決していく人材、更には新しい価値創造に向けて勇気を持って逞しく邁進し、グローバルに活躍していけるような人材を輩出することをめざしている。これらを実現するため、基礎理工学専攻、電子システム専攻、機械システム専攻、環境都市専攻（2026（令和8）年度、都市システム専攻に名称変更）の4専攻において、学部4年間と大学院2年間というゆるやかな6年制のなかでの充実した教育・研究を推進している。

今次、2026（令和8）年度カリキュラム改革にむけて議論をした結果、理工学部将来構想施策の実現、学部から大学院博士課程前期課程までの6年間、または博士課程後期課程までの9年間の教育研究の充実を念頭に置いた現行カリキュラム課題への対応、各専攻・コースの特性・ニーズに対応した科目設定及び科目精選を目的としてカリキュラム改革を行うこととした。なお、今次の改革においては、これま

での理工学研究科における教学理念と人材育成目的について一部変更を行った【資料 9】。

理工学研究科全体の共通科目としては、2019（令和元）年度より開講している超創人材育成プログラム（研究科横断プログラム）の終了を踏まえた科目精選、及び理工学国際プログラムの授業科目の新設及び廃止を行った（授業科目の新旧表は【資料 10】）。なお、これらのプログラムの科目精選により理工学研究科の学生には研究科の教学に即したより質の高い授業科目への精選を行うため、同等以上の教学内容は提供できているとともに、他研究科への影響もない。

【理工学研究科基礎理工学専攻】

理工学研究科基礎理工学専攻は、数理科学コースと物理科学コースの 2 コースで教育と研究を展開している。数理科学コースでは、特長である確率及び数理ファイナンス分野と密接にかかわり、近年著しく発展しているデータサイエンス分野を取り込んだ教育プログラムを開始し、高まる時代のニーズに添えてきている。一方で基礎数学の教育をより強化したプログラムにも取り組んできている。物理科学コースでは自然科学及び工学の学問体系を支える力学、電磁気学、熱力学・統計力学、量子力学など、古典及び現代物理学の基礎を学習するとともに、これらの科学的知識を応用する実践的な技術を修得した人材育成に取り組んできている。

基礎理工専攻は 2026（令和 8）年度のカリキュラム改革においては、教育目標及びカリキュラム・ポリシーについての変更は行わない。学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）については、基礎理工学専攻数理科学コースにおいて学位（工学）授与するにあたり、特定科目（「数理統計学特論」）の単位修得を学位授与判定基準として加えた。

また、旧授業科目を分割し、学生の受講機会を増やして多くのトピックに触れられるようにするなどし、授業科目の充実化も図った（授業科目の新旧表は【資料 10】）。

以上のように、学位授与方針の変更や、授業科目の新設及び廃止を行うが、教育課程として、収容定員を増やした場合であっても定員変更前と同等以上の内容が担保されているといえる。

【理工学研究科電子システム専攻】

理工学研究科電子システム専攻では、電気・電子工学が扱う広範な技術領域は現代社会を根底から支える工学基盤そのものであることや電子情報工学においてもエレクトロニクス、集積回路、コンピュータ、ソフトウェア、情報通信に関する広範な専門領域であることを背景に、高度専門的かつ実践応用的な教育研究を展開している。このように電子システム専攻では、グリーン・デジタル分野といった学際的な成長分野を含めた工学全般における今後の新技術創造と新技術領域開拓において必要不可欠となる高度専門人材の育成に取り組む。

電子システム専攻は 2026（令和 8）年度のカリキュラム改革においては、教育目標、カリキュラム・ポリシー及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）についての変更は行わない。

電子システム専攻の旧カリキュラムの専門科目については、幅広い分野に対応しようとしたため、結果的に講義内容に重複が生じ、過剰に提供しすぎていた実態があったが、ディプロマ・ポリシーや修了要件を考慮に入れて科目精査を行った。また、学生の受講機会を増やし、異なるトピックに触れる経験を増やすことを目的として 5 科目新設し、2 科目を廃止した（授業科目の新旧表は【資料 10】）。

以上のように、授業科目の新設及び廃止を行うが、教育課程として、収容定員を増やした場合であっても定員変更前と同等以上の内容が担保されているといえる。

【理工学研究科機械システム専攻】

機械システム専攻では、機械創成工学と機械情報工学、そしてロボティクスの3つの観点から、高度技術人材の育成に取り組んでいる。機械創成工学の観点では、「材料・加工系」「熱・流体系」「エネルギー・環境系」などの系統的な学びとともに機械工学を基盤としたサステナビリティに関連する分野横断的な教学や研究を展開している。機械情報工学の観点では、センサ・マイクロマシンや計測手法に関する学びとともにデータサイエンスの機械工学への利活用に関する教学や研究を展開している。また、ロボティクスの観点では、機械、情報、生体工学などを基盤として学びつつ、多様な先端テクノロジーを場面に応じて活用できるスキル及び基盤知識と要素技術を融合し、多様なニーズに基づきロボットの機能や形をデザインしたり、製作、実用する能力を有する創造性ある人材育成に努めている。

機械システム専攻は、2026（令和8）年度のカリキュラム改革においては、教育目標、カリキュラム・ポリシー及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）についての変更は行わない。

専門科目については、数理科学コースの科目開講方針の変更（数理単独開講）に伴い6科目を廃止することとした（授業科目の新旧表は【資料10】）。

以上のように、授業科目の新設及び廃止を行うが、教育課程として、収容定員を増やした場合であっても定員変更前と同等以上の内容が担保されているといえる。

【理工学研究科都市システム専攻（旧環境都市専攻）】

2026（令和8）年度から、理工学研究科環境都市専攻は都市システム専攻へと名称の変更を行う（2025（令和7）年4月届出済み）。都市システム専攻においては、人びとの健康で安全・安心な生活、快適で持続可能な社会の形成を支援するために、工学技術を活用し、いろいろな分野とも連携しながら総合的な立場で、環境や防災など人びとの生活に関わる問題に取り組む人材の育成に取り組む。建築都市デザインに関する新しいニーズ及び複合的な課題に応えうる人材の育成に取り組む。

都市システム専攻は、2026（令和8）年度のカリキュラム改革において、教育目標及びカリキュラム・ポリシーについての変更は行わない。なお、都市システム専攻建築都市デザインコースにある「スタジオデザインプログラム」について、一級建築士試験の受験資格が2020（令和2）年度より緩和され、受験に大学卒業後2年分の実務経験の必要がなくなり、大学卒業時の受験が可能となった。この緩和により、外部の専門家を招聘し学内インターンすることで大学院在学中の2年を実務経験に相当させ、大学院修了時に一級建築士の受験資格を与えることができる本プログラムのニーズが薄れたため、2026（令和8）年度以降本プログラムを廃止することとし、これに伴う学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の変更を行った。

都市システム専攻の専門科目について、環境システム工学コースと都市システム工学コースを統合するため、科目精選を進め、かつSDPⅡ（2年で行うスタジオデザインプログラム、1年で行うスタジオデザインプログラムは継続）の廃止にともない、これに関連する科目を廃止することで、8科目の廃止をおこなった（授業科目の新旧表は【資料10】）。

なお、一級建築士免許登録・実務経験 1 年間の取得については継続する。建築士免許登録の大学院における実務経験（1 年）要件については従来から変更はない。

以上のように、学位授与方針の変更や、授業科目の新設及び廃止を行うが、教育課程として、収容定員を増やした場合であっても定員変更前と同等以上の内容が担保されているといえる。

（3）人間科学研究科博士課程前期課程

人間科学研究科では今回の収容定員変更にあわせてカリキュラム改革を行う。2022（令和 4）年度に行ったカリキュラム改革を引き継ぎ、今回の改革において、教学理念、養成する人材像（人材育成目的）、学位授与ポリシー（ディプロマ・ポリシー）については変更を行わないが、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）については今回のカリキュラム改革を機に変更を行う。今までのカリキュラム・ポリシーは授業内容や資格内容に関する記述となっていたが、今回のカリキュラム改革では研究科として修士号を授与するにあたり学生に身につけて欲しい能力を設定した記述とする【資料 11】。

カリキュラム改革の内容としてはそれらを踏まえ、実践人間科学領域の学問領域としてのさらなる発展、3 領域（臨床心理学領域、心理学領域、実践人間科学領域）交差の促進による「アカデミック人間科学とプロフェッショナル人間科学の架橋、往還、連携と統合が可能なように諸領域を構成し、領域固有の専門性と領域共通の人間科学として総合性を得ることができる課程」の実質化、必修科目の整備とカリキュラム構造の簡素化により実践への参加と研究の発展を通じて相互を環流させる高度な技術と対応力の取得、そして、公認心理師養成カリキュラムのさらなる整備により社会の心の健康保持増進に寄与する公認心理師の養成を目指し、人材育成と教育目標のさらなる実質化を目指している。具体的には研究科の国際化を推進するための授業科目や、3 領域において求められる授業科目の新設を行うとともに、他の授業科目と内容の重複する授業科目の削減や統合、名称変更などの整理を行う。（授業科目の新旧表は【資料 12】）

以上のように教育課程の編成方針の変更や、科目の新設及び廃止を行うが、教育課程として、収容定員を増やした場合であっても定員変更前と同等以上の内容が担保されているといえる。

なお、研究科横断科目は開講していないため、他研究科に及ぼす影響もない。

（4）デザイン・アート学研究科修士課程

2026（令和 8）年度新設の研究科であるデザイン・アート学研究科では、基礎となるデザイン・アート学部において育成される能力として掲げられた、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」、「問い直し力」、「共創力」、「問題発見力」、「創造的思考力」を、学修者自身がさらに高度に発揮できることに加えその能力の意義を他者と共有するためにそれらの社会的な効用を評価できる人材の育成を目的とする。よって、これらを踏まえた人材育成目的は以下の通りである。

【人材育成目的】

デザイン・アート学研究科は、人工知能や仮想・複合現実などのデジタル情報技術の発展を背景に、人間本来の思考と創造性のあり方自体が問い直されるべき社会的要請に応えるために、本学園の根幹である「建学の精神」、「教学理念」、「立命館憲章」に則り、長い歴史と重厚な文化のもとで革新的な知が創出されてきた京都という都市において、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問

い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合して高度に発揮しながら他者と積極的に協働し、その能力の社会的意義と効用を評価することによって、多様な社会や組織において、フィジカルからデジタルに拡張し融合した未来社会を感性豊かに創造できる研究者および高度専門職業人を育成する。

これに基づき、本研究科で①学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、②教育課程の編成方針・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、③入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を設定した【資料13】。

教育課程・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）で提示した学修目標を達成するために、体系的に履修するコースワークを充実させ関連する分野の素養の涵養を図ると同時に研究指導、論文作成、学位論文審査の各段階が有機的なつながりを持って学位授与へと導くカリキュラムとする。研究指導を受けながら修士論文または課題研究の完成に向けた活動に取り組む「研究指導科目」、デザイン・アートに関する研究領域に特化した研究方法論やリサーチ手法、アカデミックライティングなどを中心的に学ぶ「新領域デザイン・アート学基盤科目群」、そして、これら研究実践と方法論・手法との緊密な連携を支える「理論」と「技能」を学ぶ「新領域デザイン・アートランゲージ科目群」の3つの区分を設定する。なお、「新領域デザイン・アートランゲージ科目群」は「理論」と「技能」に分類し、「理論」では、意味・情報・環境・社会の4視座から様々なデザイン・アートに関連する理論的枠組みを学び、「技能」では、アートの視座からデジタル造形表現やフィジカル造形表現を学ぶことに加え、理系視座・文系視座の双方からデザイン・アートに関わる実践の評価法について学ぶ科目区分となる。

また、本研究科においては大学院設置基準に基づき主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合、履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができるという規定に拠り、主に社会人を対象に1年の在学期間による修了を認め（以下「1年制」という。）、「新領域デザインストラテジー（NDS）専修」と「新領域アートディレクション（NAD）専修」の2専修を置く。専修の所属選択は入試時点にて決定される。なお、研究指導科目、新領域デザイン・アート学基盤科目群、新領域デザイン・アートランゲージ科目群から成る科目区分及び修了に必要な総単位数は2年の標準修業年限（以下「2年制」という。）と同じに設定するが、一部において2年制と異なる履修上の区分を設定することで専修領域での専門的な知識と技能の獲得を明確にする（科目構成は【資料14】）。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

（1）法学研究科博士課程前期課程

2025（令和7）年度カリキュラム改革においては人材育成目的及び3ポリシーを抜本的に変更しないことから、卒業に必要な単位数の構造も変更を行っていない。

教育方法については博士課程前期課程1回生春学期において、特別演習Ⅰの開始を前に、修士論文執筆に向けて法律学や政治学の文献収集や文献整理、論理的な文章の書き方、引用・参照方法など、法律学・政治学固有の論文執筆のためのスキルを学ぶ「法政ライティング」を複数開設し、博士課程前期課程の論文執筆という点での教育の充実化をはかっている。また、留学生・法学初学者の入学生が増えつつある中で、2年という短期間で修士論文を書き上げるケースも出てきているため、「法政ライティング」の留学生・初学者向けのクラスも開講し、日本法の基礎を学ぶ内容を含めている。この「法政ライ

ティング」を受講した上で、博士課程前期課程秋学期以降に論文指導科目の受講に接続を行っている。

また、コース再編及び科目再編を踏まえ、リーガル・スペシャリスト・コースのコース科目とそれ以外の専門科目に分類し、リーガル・スペシャリスト・コースにはビジネス法プログラム、公共法務プログラム、税務プログラムを、法政リサーチ・コースには法学プログラム、政治学プログラムを履修モデルとして提示している。

これらのことから教育方法及び履修指導方法においては、収容定員を減ずる前と同等以上の内容が担保されている。また、他研究科との横断科目もないため、他学部への影響もない。

（２）理工学研究科博士課程前期課程

今回定員増を行う理工学研究科の基礎理工学専攻、電子システム専攻、機械システム専攻、都市システム専攻については、人材育成目的及び３ポリシーを抜本的に変更しないことから、修了に必要な単位数の構造も変更を行わない。

また、それぞれ、教育方法及び履修指導方法にも変更はなく、現在の教育方法及び履修指導方法を継続していく。

理工学研究科では、専門的な知識の修得や論理的文章構成力、プレゼンテーション能力の養成するためにコースワーク（授業科目）を設定し、実験や観測及び数値シミュレーションによって得られるデータを基に考察を進めて論文を執筆するためにリサーチワーク（研究指導）を配置している。コースワーク（授業科目）の比重が過大になってリサーチワークの時間が圧迫されることがないように配慮している。学内進学学生の多くが早期履修制度を利用しており、入学前に講義科目を受講することにより大学院入学後の時間的負担を軽減している。

リサーチワーク（研究指導）の方法については専攻長間で調整して研究科で統一し、入学時期（４月もしくは９月）にあわせて以下の方法により研究指導計画を研究指導教員と学生の間で共有している。

[A]学生は、指定された様式で研究指導計画書案を作成する。

[B]指導教員は研究指導計画書案をもとに学生と個別面接を行い、研究計画を双方で確認したうえで、「研究指導計画書」を作成する。

[C]面接後の研究指導計画書を学生と共有したのち、教員は事務室に提出する。

研究指導計画書の運用により研究の目的、課題、方法、進捗状況などを教員、学生間で共有することができ、学会発表などの成果発信へ向けた計画を策定するなど研究に関するモチベーションを維持・向上することにつなげている。

教員の指導体制も充分であり、以上の取り組みからも、収容定員が増加した場合であっても定員変更前と同等以上の内容が担保されているといえる。

（３）人間科学研究科博士課程前期課程

2026（令和８）年度カリキュラム改革では、３領域（臨床心理学領域、心理学領域、実践人間科学領域）の相互交流を促進し、人間科学を発展させる学びに即するために、修了に必要な単位数の領域専門のうち自領域から最低取得すべき単位数を８単位とする。修了要件の必要単位数である共通科目４単位・演習８単位・自領域の専門科目８単位以外の計１０単位についてはどの領域からも履修できるよう

にする。これは、学期ごとに最低1科目を自領域の専門科目から履修する計算となる。この履修方法とすることで自由度が増し、他領域の科目を学ぶことによってより広い視野での人間理解と人間科学の中にある自領域への理解が促進され、それが人間科学のさらなる発展と高みへとつながると考えられる。

また、領域専門科目のうち心理学領域を「基礎心理学」「教育・発達心理学」、実践人間科学領域を「多様性社会実践」「対人援助実践」「社会心理学実践」に階層化し、科目群として系統的に学生に示すことで、自身の研究テーマに即した他領域科目の履修を促す。

修了に必要な単位数の新旧対照表

現行

科目区分			必要単位数	
			各区分	合計
共通科目			4 単位以上	30 単位以上
専門科目	演習		8 単位	
	公認心理師		—	
	領域専門	心理学領域	自領域から 10 単位以上	
		臨床心理学領域		
実践人間科学領域				

改正案

科目区分				必要単位数	
				各区分	合計
共通科目				4 単位以上	30 単位以上
専門科目	演習			8 単位	
	公認心理師共通実習			—	
	領域専門	心理学領域	基礎心理学	自領域から 8 単位以上	
			教育・発達心理学		
		臨床心理学領域			
		実践人間科学領域	多様性社会実践		
対人援助実践					
社会心理学実践					

さらに、演習科目のスケジュールを領域共通としてアライアンスを活用し、ポスター発表における領域間及び前期課程と後期課程間の交流を促進する。人間科学研究科では従来より指導教員は特定の領域に所属する学生のみを指導する方針はとっておらず、広く学生指導を行っている。これにより複数の領域の学生が一つの演習クラスに所属することが増えたことは領域交差が進んでいる証であり、大切にすべき傾向である。

以上のことから、収容定員を増加した場合であっても定員変更前と同等以上の内容が担保されているといえる。

(4) デザイン・アート学研究科修士課程

デザイン・アート学研究科の授業は、各科目の内容によって講義または演習形式で行う。教育方法は、修士論文または課題研究の完成に向けた活動に組みながら、プロジェクトベースの探究活動を基本とし、グループワーク、実習、フィールドワークなどの実践的な学びを展開する。講義形式を重視する授業は「新領域デザイン・アートランゲージ科目群」の「理論」に配置された科目が中心となるが、これらの科目においてもグループワークやディスカッション、ワークショップといったアクティブラーニング形式を取り入れ、「主体的な・対話的な・深い学び」を実現する。

また、1年制では主に社会人学生、2年制では学部からの進学学生及び社会人学生といった多様な学生を受け入れる。そのため、開講形態は時間や場所の制約を少なくし、各々の学修目的や事情に応じた開講形態を展開する。いずれも学内に導入しているLMSやオンラインのコミュニケーションツールを活用し、授業に関する質問や意見交換、課題の提出等に取り組み、教員と学生、また学生同士の双方向コミュニケーションの機会を確保する。

①開講形態

【研究指導科目】

2年制は面接授業として対面実施する。学生は、大学キャンパスにおいて他学生や教員と直接交流する機会を持つことで、互いに刺激を受けながら学びを深め自身の研究実践計画を綿密に検討し、より実現性の高いものにしていく。

主に社会人を対象とする1年制はメディア授業とし、オンラインリアルタイム指導、個別オンラインカウンセリング、個別対面カウンセリングを組み合わせで行う。オンラインリアルタイム指導では、インターネットを通じて教員から直接指導を受けることができ、場所を問わず参加が可能である。個別オンラインカウンセリングでは、学生それぞれの進捗や課題に応じた指導が行われ、個別のニーズに対応したサポートが受けられる。さらに、特定の必要がある場合には、対面でのカウンセリングも提供され、学生の研究実践をより深く支援する。これにより、社会人としての多忙なスケジュールの中でも効率的に学修を進め、研究を実践する環境を整備する。

【新領域デザイン・アート学基盤科目群】

研究指導科目を通して最終成果を仕上げる基軸となる学修パスの基盤として「新領域デザイン・アート学基盤科目群」を設ける。この科目群は2年制及び1年制のいずれもメディア授業とし、オンラインリアルタイム形式とオンデマンド形式を活用して展開する。オンラインリアルタイム形式では、ビデオ会議ツールやオンラインプラットフォームを活用して、リアルタイムで教員と学生がインタラクティブに授業を進める。オンデマンド形式では、学生が自分のスケジュールに合わせて学修時間を調整することで、反復学修や補足学修を行うことを促す。

【新領域デザイン・アートランゲージ科目群】

新領域デザイン・アートランゲージ科目群は、研究指導科目と新領域デザイン・アート学基盤科目群の緊密な連携に幅広い知識と技能を与え、支え、研究の視野と活動の幅を広げる。この科目群は、「理論」と「技能」に区分され、「理論」に配置する科目は講義形式が中心となり、2年制及び1年制のいずれもメディア授業とし、オンラインリアルタイム形式とオンデマンド形式を活用して展開する。

「技能」に配置する科目のうち、「デジタルアート表現演習」「フィジカルアート表現演習」は作品・展示物の制作を行う。また「デザインフィールドワーク演習」はグループ作業による地元行政や地域コミュニティ等におけるフィールドワークやコミュニケーションが求められるため面接授業とし、1年制の学生も履修できるよう夏期の集中科目として実施する。その他の科目については、2年制及び1年制のいずれもメディア授業とし、オンラインリアルタイム形式とオンデマンド形式を活用して展開する。

②履修・研究指導の方法

本研究科の履修指導については、授業が開始するまでに新入生に対して「履修ガイダンス」を実施し、本学及び本研究科の教学理念、カリキュラムと単位履修構造、学びのプロセス、科目の履修方法、プロジェクトの参画等について説明を行う。学生が具体的な履修計画を立てる際には指導教員が学生の研究テーマやキャリアビジョンを踏まえてカウンセリング、支援、指導を行う。2年制1回生春学期には、その後の研究推進における主・副指導教員とのマッチングを行うために、専任教員全員の専門領域や現在の研究内容を把握し、質疑や議論が行えるよう、専任教員全員によるオムニバス形式の授業を実施する。

なお、セメスターや在学期間を通して学修の偏りがなく履修計画を立てられるよう年間履修登録上限単位数を以下のとおりとする。

2年制の履修登録上限単位数

1回生		2回生	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
16	16	16	16

1年制の履修登録上限単位数

1回生	
1セメスター	2セメスター
20	20

③修了要件

2年制

修士論文または課題研究のための研究実践の場となる「研究指導科目」3科目6単位及びその方法論と手法を学び、研究実践における基盤となる「新領域デザイン・アート学基盤科目群」5科目10単位の計16単位を必修科目とする。「新領域デザイン・アートランゲージ科目群」は学生の研究実践計画に基づき履修し、必修科目と合わせて30単位以上を修得し、かつ修士論文または課題研究の審査に合格し「学位授与の方針」に明示する資質・能力を備えた者に対して、修士の学位を授与する。

2 年制の修了要件

科目区分	必要単位数
研究指導科目	必修科目 6 単位
新領域デザイン・アート学基盤科目群	必修科目 10 単位
新領域デザイン・アートランゲージ科目群	14 単位以上
合計	30 単位以上

1 年制

課題研究のための研究実践の場となる「研究指導科目」2 科目 4 単位およびその方法論と手法を学び、研究実践における基盤となる「新領域デザイン・アート学基盤科目」4 科目 8 単位、さらに「新領域デザイン・アートランゲージ科目群」のうち各専修の専門領域に特化した 5 科目 10 単位を必修科目とする。必修科目と合わせて 30 単位以上を修得し、かつ課題研究の審査に合格し「学位授与の方針」に明示する資質・能力を備えた者に対して、修士の学位を授与する。

1 年制の修了要件

科目区分	必要単位数
研究指導科目	必修科目 4 単位
新領域デザイン・アート学基盤科目群	必修科目 8 単位
新領域デザイン・アート ランゲージ科目群	18 単位以上 (各専修の専門領域に特化した必修科目 10 単位含む)
合計	30 単位以上

修士課程 1 年制では主に社会人学生を受け入れる。このことから、場所や距離、時間の制約を少なくし、各々の学修目的や事情に応じた開講形態を展開するとともに夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行う。

(ウ) 教員組織の変更内容

今般の収容定員変更に係る研究科においては「大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件」に規定されている教員数を上回っている。また、収容定員を増加する研究科においても、教員の増加をすることでST比を同等以上にする予定である。そのため、収容定員に係る学則変更の前後において、教員組織体制の低下はない。その他の既存の学部・学科の教員組織はそのまま維持されるため、他研究科への影響もない。

学則変更に係る研究科専攻の教員組織の変更内容の詳細は、以下の通りである。

(1) 法学研究科博士課程前期課程

法学研究科には研究指導教員が51名おり、「大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件」に規定されている基準数の10名を大きく上回っている。今回の収容定員減少後も、法学研

究科については、教員体制の変更を行わない。そのため、教員組織としては同等以上を担保できることとなる。

（２）理工学研究科博士課程前期課程

2026（令和8）年度からの定員の増加により基礎理工学専攻20名、電子システム専攻15名、機械システム専攻15名、都市システム専攻25名の定員増となる。2024（令和6）年度の理工学研究科各専攻の研究指導教員数については、基礎理工学専攻26名、電子システム専攻32名、機械システム専攻26名、都市システム（旧環境都市）専攻31名であり、「大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件」に規定されている基準数（基礎理工学専攻8名、電子システム専攻20名、機械システム専攻20名、都市システム（旧環境都市）専攻18名）を大きく上回っている。

収容定員増後において必要とされる教員数は基礎理工学専攻10名、電子システム専攻23名、機械システム専攻23名、都市システム（旧環境都市）専攻21名となるが、定員が増加しても基準数を十分に上回っており、必要な教員組織を担保しているといえる。

また定員増後のS T比は基礎理工学専攻3.6人、電子システム専攻8.8人、機械システム専攻9.3人、都市システム専攻8.0人となっており、教育の質は十分に担保できる教員組織となっている。今次の入学定員増後も4名の教員の追加を予定しており、ST比の維持につとめる。

（３）人間科学研究科博士課程前期課程

2026（令和8）年度からの定員の増加により入学定員75名、収容定員150名となる。現在人間科学研究科の研究指導教員数は38名であり、「大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件」に規定されている教員数の7名を大きく上回っている。収容定員を増加しても必要数は8名であり、教員数は十分に担保されている。ST比としては現状収容定員あたりに3.1人となるが、収容定員増加後の2026（令和8）年度にも3名の任用を予定しており、ST比が3.4人となる予定であり、収容定員変更前と同程度のST比の維持に努める。

以上のことから、教員組織は十分に担保されているといえ、また、収容定員変更後のS T比も同程度とすることで収容定員増加前と同等のものを担保しているといえる。

（４）デザイン・アート学研究科修士課程

デザイン・アート学研究科は23人の専任教員（うち教授16名）を配置する。計23名であることから、「大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件」に規定されている教員数の2.88倍の専任教員数を配置していることとなる。完成年度におけるST比は1.73人となる予定であり教育の質を十分に担保できる教員組織となっている。専任教員は、既存の文学部、経営学部、グローバル教養学部から移籍する教員が3名、残り20名は新規採用する。多くが新規採用であり、他学部から移籍した教員については各学部において補充を行うことから、他学部等の教員組織に与える影響はない。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

今般の収容定員変更に関して、施設・設備に大きな変更は生じない。そのため、収容定員変更後も、各キャンパスの収容力においても機能面においても不足は生じず、他学部等に与える影響もない。収容定員変更に関係する研究科専攻の施設・設備の変更内容は、以下の通りである。

(1) 法学研究科博士課程前期課程

法学研究科が設置される衣笠キャンパスの施設、設備等を使用する。衣笠キャンパスは、現在 5 学部（法学部、産業社会学部、国際関係学部、文学部、映像学部（OIC と 2 拠点、主な拠点は OIC））と、6 研究科（法学研究科、社会学研究科、国際関係研究科、文学研究科、言語教育情報研究科、先端総合学術研究科）を設置しており、加えて 2026（令和 8）年度にデザイン・アート学部及びデザイン・アート学研究科を新設する。デザイン・アート学部の設置により、施設・設備の変更があるが、法学研究科に係る施設・設備に変更はなく、定員変更前と同等の内容が担保されている。既設学部等との共同利用の施設として、大学院共同研究棟、図書館、講義室、情報教室、食堂施設、保健センター、学生交流施設、セミナーハウス等が整備されている。

(2) 理工学研究科博士課程前期課程

理工学研究科が設置されるびわこ・くさつキャンパスの施設、設備等を使用する。びわこ・くさつキャンパスは今回の収容定員変更に伴う施設・設備の変更は実施しない。びわこ・くさつキャンパスには、学部では理工学部の他に、生命科学部、薬学部、スポーツ健康科学部、食マネジメント学部が、研究科では理工学研究科の他に、生命科学研究科、薬学研究科、スポーツ健康科学研究科、食マネジメント学研究科が設置されている。

びわこ・くさつキャンパスは既設学部等との共同利用の施設として、社会科学系の「メディアライブラリー」及び理工学系の「メディアセンター」の2つの図書館、講義室、情報教室、食堂施設、保健センター、学生交流施設、セミナーハウス等が整備されている。事務室、執行部（役職者）執務室、応接室、会議室等の学部運営施設は「コアステーション」1階を利用する。

教員研究室は「ウエストウイング」「イーストウイング」「コアステーション」「トリシア」「学術フロンティア」「防災システムリサーチセンター」に約200室を確保する。また、大学院研究室も約230室確保している。今回の収容定員変更により、理工学研究科の収容定員は900名から1,050名となるが、教員研究室への配属も1研究室あたり1～2名増える程度で影響もほとんどなく、十分な施設・設備を備えている。

これらにより、収容定員の変更後でもびわこ・くさつキャンパスの他学部、他研究科も含めて定員変更前と同等の施設条件が整っていることとなる。

(3) 人間科学研究科博士課程前期課程

人間科学研究科が設置される大阪いばらきキャンパスの施設、設備等を使用する。大阪いばらきキャンパスは今回の収容定員変更に伴う施設・設備の変更は実施しない。

大阪いばらきキャンパスには、学部では、総合心理学部のほかに政策科学部、経営学部、グローバル

教養学部、情報理工学部、映像学部が、研究科では人間科学研究科、経営研究科、情報理工学研究科、映像研究科、テクノロジー・マネジメント研究科、経営管理研究科が設置されている。

人間科学研究科の開講する科目の授業は主に、「A棟」にて行い、教室数は小教室（99人以下）110室、中教室（100人～399人）29室、となる。施設設備条件については、カリキュラム改革によって設置科目数が増加するものの、5限以降の開講やクラス数の見直しを行うことから、教室条件において影響はない。キャンパス内には、教室棟に加えて、OICライブラリー、コモンズ、保健センター、体育館等が設置されている。

A棟6階全体に総合心理学部・人間科学研究科の実験・実習、共同ゼミスペースや「認知実験室」「行動実験室」「知覚実験室」が配置されていることに加え、新たに学生たちが課題や不安を共有したり、切磋琢磨したりできるAS 新エリア（公認心理師実習指導室）を2024（令和6）年度に設置した。ここには臨床心理士と公認心理師資格の取得を目指す学生が在籍する臨床心理学領域と、公認心理師資格の取得を目指す学生の一部が在籍する心理学領域と実践人間科学領域を抱える本研究科特有のニーズを満たす環境が備えられているなど、日本最大級の規模を誇る総合心理学部の学生専用の実験・実習施設を整備し、多様な学びを支える施設も充実している。また、A棟7階には人間科学研究科の院生用の研究室が設置されており、今回の定員増にあわせて増席を予定しており、席数も問題はない。

教員研究室は「A棟」の7、8階に45室を確保する。事務室、執行部（役職者）執務室、応接室、会議室等の学部運営施設は「A棟」1階を利用する。

これらにより、収容定員の変更後でも大阪いばらきキャンパスの他学部、他研究科も含めて変更前と同等の施設条件が整っていることとなる。

（4）デザイン・アート学研究科修士課程

デザイン・アート学研究科は、衣笠キャンパス（京都市北区）に設置する。多数の教室や演習室、図書館に加え、保健センター、学生食堂などの施設を整備しており、他学部、他研究科と十分に共用は可能である。

デザイン・アート学研究科は、既存施設である充光館（地下1階・地上3階建）を改修して活用するとともに、新棟（地下1階・地上2階建）を整備し、2027（令和9）年4月から供用を開始する。既存施設の改修後は、地下1階に「オープンスタジオ（1室）」、「オープンアトリエ（1室）」、「デジタルスタジオ（1室）」を整備し、これに加えて「ファクトリー」を整備する。1階には、「レンタルラボ」を整備するとともに、「オープンラボ」も整備し、両施設を研究活動の拠点として一体的に運用する。また、2階、3階には、教員の個人研究室となる「ラボ（27室）」を整備するとともに、研究スペースでもある「オープンラボ」スペースを整備する。

新棟については、地下1階に「オープンアトリエ（1室）」、「デジタルスタジオ（1室）」、これに加えて「ファクトリー」を整備する。1階には、「デジタルスタジオ（1室）」、「小教室（5室）」を整備し、2階には、「オープンスタジオ（2室）」を整備する。さらに、既存施設、新棟ともに、本研究科の内外問わずに交流や共創、協働のできる場として「クリエイティブラウンジ」を整備し、作業や展示が行える環境を構築する。これらの施設は、デザイン・アート学部とデザイン・アート学研究科で共同利用する。

なお、大学設置基準に定められている教育研究に必要な専用の講義室、研究室、実験・実習室、演習室等を備えており、上記の施設で教育研究を進めていく。

以上

学則の変更の趣旨等を記載した書類（資料）

資料目次

資料 1	デジタル田園都市国家構想基本方針（22 頁）	2
資料 2	理工系人材需給状況に関する調査結果概要（6 頁、12 頁～13 頁）	3
資料 3	「A I 戦略 2022」の取組（5 頁～6 頁、14 頁）	6
資料 4	環境分野における人材育成（2 頁～3 頁）	9
資料 5	中小都市を含め、取組を促進するための支援・改善策について（12 頁）	11
資料 6	公認心理師の多様な活躍につながる人材育成の在り方に資する調査（ i 頁）	12
資料 7	人間科学研究科 5 つの方針	13
資料 8	法学研究科博士課程前期課程の理念・目的と人材育成目的、教育目標、3 ポリシー	15
資料 9	理工学研究科博士課程前期課程の教学理念と人材育成目的、教育目標、3 ポリシー	19
資料 10	理工学研究科 授業科目の新旧表	24
資料 11	人間科学研究科博士課程前期課程の教学理念と人材育成目的、3 ポリシー	35
資料 12	人間科学研究科 授業科目の新旧表	39
資料 13	デザイン・アート学研究科修士課程の人材育成目的、3 ポリシー	40
資料 14	デザイン・アート学研究科 科目構成	45

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」 資料 1 (2 ページ)

1. 書類等の題名

デジタル田園都市国家構想基本方針

2. 出典

内閣府

3. 引用範囲

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_denen/pdf/20220607_honbun.pdf

(22 ページ)

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」資料 2（3 ページ）

1. 書類等の題名

理工系人材需給状況に関する調査結果概要

2. 出典

経済産業省

3. 引用範囲

https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/jinzai/1-3_rikoukeijinzai_chouosakekka.pdf （6 ページ、12-13 ページ）

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」資料3（6 ページ）

1. 書類等の題名

「A I 戦略 2022」の取組

2. 出典

内閣府

3. 引用範囲

<https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/senryaku/11kai/siryo2.pdf>

（5-6 ページ、14 ページ）

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」資料 4 (9 ページ)

1. 書類等の題名

環境分野における人材育成

2. 出典

環境省

3. 引用範囲

http://eco.env.go.jp/files/material02_r41227.pdf (2-3 ページ)

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」資料 5（11 ページ）

1. 書類等の題名

中小都市を含め、取組を促進するための支援・改善策について

2. 出典

国土交通省

3. 引用範囲

https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/content/001718199.pdf（12 ページ）

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」資料（6（12 ページ）

1. 書類等の題名

公認心理師の多様な活躍につながる人材育成の在り方に資する調査

2. 出典

株式会社 浜銀総合研究所

3. 引用範囲

<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001113619.pdf> （i ページ）

【資料 7】人間科学研究科 5つの方針

（方針1）「人間科学のさらなる高みを目指して」

人間科学研究科を構成する三つの領域、人が人を研究する理論と方法を精緻化する心理領域、実践に胚胎する研究の可能性を拓く実践人間科学、心の健康に展開する理論と技法を精練する臨床心理学は、それぞれの側面から人の心とウェルビーイングに適切に焦点化した科学実践を展開し、周辺領域と知を循環する。今次カリキュラム改革では自領域での教育研究にとどまらない領域交差の推進を一層進める。具体的には、①3領域の教員が連携し、それぞれの領域における重要な内容を扱い、社会の中で人間科学を実践している外部講師を招いて開講している科目「社会の中の人間科学」、その発展科目として現場で実践を行い、そこで直面する問題の解決と実践と研究の往還を目指して対話と討議を行う PBL 型科目「心理プラス com」を共通科目とし、全領域の学生の履修を促進する。②他領域の科目を学ぶことによってより広い視野での人間理解、及び、人間科学の中にある自領域への理解が増すと考えられることから領域専門科目のうち自領域から取得すべき単位数変更等の履修構造の見直し、③演習Ⅰ～Ⅳのスケジュールを領域共通とし、アライアンスを活用し、ポスター発表における領域間及び課程間の交流を促進する、などの取り組みを進める。

（方針2）「研究科のさらなる国際化」

人間科学研究科・総合心理学部には、国際共同研究や国際フィールドワークを実施している教員が多数いるが、それらの共同研究や実践に学生が参加しているケースは限られている。国の政策においても、学問の方向性としても、国際共同研究が推進されており、また、グローバル時代における国際場面でのフィールドワークや実践は益々重要となっていく。学生の間から、国際共同研究に実際にに関わり、国際共同研究場面における研究者間の調整方法や研究の推進方法を身につけたり、国際フィールドワークや実践に関わり、現場レベルでの調整や実践への理解を増したりすることは大変重要な機会となる。そのため、国際共同研究や国際フィールドワークを実施している教員のプロジェクトに参加して学びを深めていく機会を提供する科目「国際プロジェクト研究」を新設する。また、学生の英語による発表機会の創出、経済的事情や家庭の事情により海外交流に参加できない学生への交流機会の担保、国際研究機会を促進するため、研究科間協定を結ぶ海外大学との院生の研究交流、実践交流の充実に取り組む。

（方針3）「実践人間科学の目標の明確化」

実践人間科学領域の学びを充実させるため、人間科学研究科の教育・研究資源を活用した領域再編を行う。具体的には「多様性社会実践」「対人援助実践」「社会心理学実践」に関連する講義の新設を行う。また、実践人間科学領域には、大学院で学ぶことにより、自らが働く現場への理解を深め、関連する学問分野の知識を身につけ、より高度な教学と実践の往還

を目指す社会人学生が多く在籍している。そうした学生たちへのより柔軟な教育の展開ため、さらに、公認心理師を目指す学生には資格科目の予復習の充実が期待できるため、研究科共通科目および公認心理師科目を中心に、オンデマンド提供科目の充実を図る。

（方針4）「臨床領域の体制整備と心理・教育相談センターとの連携」

2024年3月に実施された第7回公認心理師国家試験では人間科学研究科の新卒29名全員が合格し、学校別合格者数で全国1位となった。臨床心理士とともに公認心理師は博士課程前期課程のカリキュラムでの実習に関わる科目の履修が必修とされている。人間が抱える多様な心の問題への介入、心の健康を促進するための予防支援を行うため、学生の実習に際しては、学内外の実習機関によるスーパービジョンのみならず、学内のカリキュラムを熟知する教員によるスーパービジョンや学生同士のピアスーパービジョンも重要な位置付けとなる。2024年4月にはA棟6階ASエリアに公認心理師実習指導室が整備され、臨床心理学領域で臨床心理士と公認心理師資格の取得を目指す学生と、心理学領域と実践人間科学領域で公認心理師資格の取得を目指す学生が切磋琢磨し、資格試験の対策に取り組むことが可能となった。そうした、人を支える学問的特色とキャンパス環境の特色を生かして研究科の価値を高めていく。

また、臨床心理士養成を主な目的として設置している心理・教育相談センターは、公認心理師養成においても実習を提供する場所としての活用を始めている。心理・教育相談センターには、臨床心理士資格や公認心理師資格を保有する教員が在籍し、実習生と資格保持者が共同して臨床的な支援を安価で提供しており、地域住民が多く利用している。2025年のA棟保健センター跡への移設を機に、オンライン相談対応も含め、活動をさらに地域社会へと展開していく。

（方針5）「ゆるやかな6年制構想と前・後期課程の接続」

公認心理師の養成については、学部4年間と博士課程前期課程2年間をゆるやかな一貫教育をめざすことで、効果的な教学を展開する。公認心理師資格の取得には、学部在籍中に履修しなくてはならない講義科目と実習科目、博士課程前期課程在籍中に履修しなくてはならない講義科目と実習科目がある。博士課程前期課程では、満たさなくてはならない卒業要件単位の履修や修士論文の執筆に加えて、3月に実施される国家試験に向けた準備が求められる。そのため、院生への過度な負担を減らすために、学部生に対する早期履修制度を充実させていく。

また、学部、博士課程前期課程・博士課程後期課程の学生が同じ場所で学ぶ利点を活かし高等教育における一環教育の接続を展開することで、研究による科学的手法と現場を見通す実践的手法による人間科学を結実し、社会の中の人間科学として発信していく。

【資料8】

＜法学研究科博士課程前期課程の理念・目的と人材育成目的、教育目標、3ポリシー＞

1. 理念・目的

法学研究科は、「平和と民主主義」という本学の教学理念をふまえつつ、法学・政治学に関する高度な専門知識とその運用能力の獲得のための教育を行い、高度に法化した現代社会において、基本的人権を尊重し、豊かな学識をもって諸課題に取り組むことのできる人材を養成する。

2. 人材育成目的

法学研究科は、法学・政治学の研究者、法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする職業分野において活躍できる人材、および法学・政治学に関する特定のテーマにおいて豊かな学識と教養を身につけた人材の養成を目的とする。

研究コース

博士課程前期課程研究コースは、博士後期課程での研究および学修を視野に入れつつ、法学・政治学の研究者を育成することを目的とする。

リーガル・スペシャリスト・コース

博士課程前期課程リーガル・スペシャリスト・コースは、法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする職業分野において活躍できる人材の育成を目的とする。

法政リサーチ・コース

博士課程前期課程法政リサーチ・コースは、法学・政治学に関する特定のテーマにおいて豊かな学識と教養を身につけた人材の育成を目的とする。

3. 教育目標

研究コース

博士課程前期課程研究コースは、法学・政治学の研究者となるために必要とされる以下の知識と能力の獲得を教育目標とする。

ア) 法学・政治学に関する高度な専門知識

イ) 法学・政治学に関する国内外の資料を読み解く能力（資料読解能力（外国語能力を含む））

ウ) 資料から得た情報をもとに一定の問題意識を形成し、独自性のある研究を行う能力

リーガル・スペシャリスト・コース

博士課程前期課程リーガル・スペシャリスト・コースは、法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする職業分野において活躍できる人材となるために必要とされる以下の知識と能力の獲得を教育目標とする。

ア) 法学・政治学に関する高度な専門知識

イ) 法学・政治学に関する資料を読み解く能力（資料読解能力）

ウ) 法学・政治学の問題を独自の視点で分析する能力（問題分析能力）

エ) 法学・政治学の問題に対して独自の解決を導く能力（問題解決能力）

法政リサーチ・コース

博士課程前期課程法政リサーチ・コースは、法学・政治学に関する特定のテーマにおいて豊かな学識と教養を身につけた人材となるために必要とされる以下の知識と能力の獲得を教育目標とする。

- ア) 法学・政治学に関する高度な専門知識
- イ) 法学・政治学に関する資料を読み解く能力（資料読解能力）
- ウ) 法学・政治学の問題を独自の視点で分析する能力（問題分析能力）
- エ) 法学・政治学の問題に対して独自の解決を導く能力（問題解決能力）

4. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

研究コース

本研究科は、以下のすべての項目に該当する者を博士課程前期課程研究コースの入学者として受け入れる。

- ア) 法学・政治学の研究者を志望する者
- イ) 大学院での研究および学修をつうじて自らの学問的関心をより専門的に深めていく意欲がある者
- ウ) 大学院での研究および学修をつうじて自らの学問的関心をより専門的に深めていくために必要とされる基礎的な知識と能力を備えている者

リーガル・スペシャリスト・コース

本研究科は、以下のすべての項目に該当する者を博士課程前期課程リーガル・スペシャリスト・コースの入学者として受け入れる。

- ア) 法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする職業分野を志望する者
- イ) 大学院での研究および学修をつうじて上記ア) の職業分野で求められる知識と能力を獲得していく意欲がある者
- ウ) 大学院での研究および学修をつうじて上記ア) の職業分野で求められる知識と能力を獲得していくために必要とされる基礎的な知識と能力を備えている者

法政リサーチ・コース

本研究科は、以下のすべての項目に該当する者を博士課程前期課程法政リサーチ・コースの入学者として受け入れる。

- ア) 大学院での研究および学修をつうじて自らの学問的関心をより専門的に深めていく意欲がある者
- イ) 大学院での研究および学修をつうじて自らの学問的関心をより専門的に深めていくために必要とされる基礎的な知識と能力を備えている者

5. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

研究コース

本研究科は、博士課程前期課程研究コースに関して、法学・政治学の研究者となるために必要とされる知識と能力（法学・政治学に関する高度な専門知識、資料読解能力（外国語能力を含む）、資料から得た情報をもとに一定の問題意識を形成し、独自性のある研究を行う能力）の獲得のため、科目区分として、講義科目、外国書講読科目、演習科目、および特別

研究科目を置く。

- (a) 講義科目においては、法学・政治学に属する個々の学問分野が、講義形式または報告形式によって体系的に学ばれる。このような科目区分を置くことによって、個々の学問分野に関する高度な専門知識が獲得されると共に、資料読解能力（外国語能力を含む）が涵養される。
- (b) 外国書講読科目においては、法学・政治学に関する外国語文献の講読が行われる。このような科目区分を置くことによって、資料読解能力（外国語能力を含む）が涵養される。
- (c) 演習科目においては、法学・政治学に属する個々の学問分野における重要テーマが、演習形式によって学ばれる。このような科目区分を置くことによって、個々の学問分野に関する高度な専門知識が獲得されると共に、資料読解能力（外国語能力を含む）と、資料から得た情報をもとに一定の問題意識を形成し、独自性のある研究を行う能力が涵養される。
- (d) 特別研究科目においては、修士論文の執筆のための指導が行われる。このような科目区分を置くことによって、資料読解能力（外国語能力を含む）と、資料から得た情報をもとに一定の問題意識を形成し、独自性のある研究を行う能力が涵養される。
なお、上記いずれの科目区分においても、成績は、作成したレジュメやレポートの完成度のほか、授業中に発言した内容などを総合的に勘案し、平常点によって評価するものとする。

リーガル・スペシャリスト・コース

本研究科は、博士課程前期課程リーガル・スペシャリスト・コースに関して、法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする職業分野において活躍できる人材となるために必要とされる知識と能力（法学・政治学に関する高度な専門知識、資料読解能力、問題分析能力、問題解決能力）の獲得のため、科目区分として、専門科目と特別演習科目を置く。

- (a) 専門科目（その一部はリーガル・スペシャリスト・コース科目に指定される）においては、法学・政治学に属する個々の学問分野が、講義形式または演習形式によって体系的に学ばれる。このような科目区分を置くことによって、個々の学問分野に関する高度な専門知識が獲得されると共に、資料読解能力と問題分析能力が涵養される。
- (b) 特別演習科目においては、修士論文の執筆のための指導が行われる。このような科目区分を置くことによって、資料読解能力、問題分析能力、および問題解決能力が涵養される。

なお、上記いずれの科目区分においても、成績は、作成したレジュメやレポートの完成度のほか、授業中に発言した内容などを総合的に勘案し、平常点によって評価するものとする。

法政リサーチ・コース

本研究科は、博士課程前期課程法政リサーチ・コースに関して、法学・政治学に関する特定のテーマにおいて豊かな学識と教養を身につけた人材となるために必要とされる知識と能力（法学・政治学に関する高度な専門知識、資料読解能力、問題分析能力、問題解決

能力)の獲得のため、科目区分として、専門科目と特別演習科目を置く。

(a) 専門科目においては、法学・政治学に属する個々の学問分野が、講義形式または演習形式によって体系的に学ばれる。このような科目区分を置くことによって、個々の学問分野に関する高度な専門知識が獲得されると共に、資料読解能力と問題分析能力が涵養される。

(b) 特別演習科目においては、修士論文の執筆のための指導が行われる。このような科目区分を置くことによって、資料読解能力、問題分析能力、および問題解決能力が涵養される。

なお、上記いずれの科目区分においても、成績は、作成したレジュメやレポートの完成度のほか、授業中に発言した内容などを総合的に勘案し、平常点によって評価するものとする。

6. 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

博士課程前期課程

研究コース

本研究科は、博士課程前期課程研究コースに所属する院生に対し、研究コース科目の中から講義科目8単位、演習科目4単位、外国語講読科目8単位、特別研究科目6単位の計26単位を修得し、かつ、その他の科目も含め計30単位を修得すると共に、提出した論文について修士論文の審査に合格したことをもって、同コースの教育目標が達成されたものとみなし、修士(法学)の学位を授与する。

リーガル・スペシャリスト・コース

本研究科は、博士課程前期課程リーガル・スペシャリスト・コースに所属する院生に対し、リーガル・スペシャリスト・コース科目に指定される専門科目と特別演習科目(「特別演習1」と「特別演習2」の両方の単位を修得しなければならない)から計16単位を修得し、かつ、その他の科目(ただし、研究コース科目を除く)も含め計30単位を修得すると共に、提出した論文について修士論文の審査に合格したことをもって、同コースの教育目標が達成されたものとみなし、修士(法学)の学位を授与する。

法政リサーチ・コース

本研究科は、博士課程前期課程法政リサーチ・コースに所属する院生に対し、特別演習科目(「特別演習1」と「特別演習2」の両方の単位を修得しなければならない)とその他の科目(ただし、研究コース科目を除く)から計30単位を修得すると共に、提出した論文について修士論文の審査に合格したことをもって、同コースの教育目標が達成されたものとみなし、修士(法学)の学位を授与する。

【資料9】

＜理工学研究科博士課程前期課程の教学理念と人材育成目的、教育目標、3ポリシー＞

1. 教学理念と人材育成目的 新旧対照表

旧	新
教学理念と人材育成目的 本研究科は、立命館建学の精神および、立命館の教学理念の下、理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門技術者を養成することを目的とする。	教学理念と人材育成目的 本研究科は、立命館建学の精神および、立命館の教学理念の下、理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門人材を養成することを目的とする。

2. 教育目標 新旧対照表

旧	新
教育目標 博士課程前期課程では、理工学研究科の教学理念と人材育成目的の下、以下の全ての能力を有する人材を育成することを教育目標とする。 1. 自然科学および専門領域における確かな知識と研究能力を有する者。 2. 日本語による論理的文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力および外国語によるコミュニケーション能力を有する者。 3. 研究者・技術者としての責任を自覚した上で、専門領域における問題設定・解決能力を有する者。 [基礎理工学専攻] 基礎理工学専攻では、数学または物理学の専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を教育目標とする。 [電子システム専攻] 電子システム専攻では、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を教育目標とする。 [機械システム専攻] 機械システム専攻では、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における	教育目標 博士課程前期課程では、理工学研究科の教学理念と人材育成目的の下、以下の全ての能力を有する人材を育成することを教育目標とする。 1. 自然科学および専門領域における確かな知識と研究能力を有する者。 2. 日本語による論理的文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力および外国語によるコミュニケーション能力を有する者。 3. 研究者・技術者としての責任を自覚した上で、専門領域における問題設定・解決能力を有する者。 [基礎理工学専攻] 基礎理工学専攻では、数学または物理学の専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を教育目標とする。 [電子システム専攻] 電子システム専攻では、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を教育目標とする。 [機械システム専攻] 機械システム専攻では、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における

確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を教育目標とする。 [環境都市専攻] 環境都市専攻では、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を教育目標とする。	確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を教育目標とする。 [都市システム専攻] 都市システム専攻では、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を教育目標とする。
--	--

3. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） 新旧対照表

旧	新
入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） 博士課程前期課程は、教育目標を踏まえ、以下の全てを有する者の受入を行う。 1. 自然科学および専門領域における基礎的な学力を有する者。 2. 国内外における科学・技術を理解するための語学力を有する者。 3. 研究者・技術者としての責任を理解した上で、専門領域における問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者。 [基礎理工学専攻] 基礎理工学専攻では、数学または物理学の専門領域における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者の受入を行う。 [電子システム専攻] 電子システム専攻では、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者の受入を行う。 [機械システム専攻] 機械システム専攻では、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者の受入を行う。	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） 博士課程前期課程は、教育目標を踏まえ、以下の全てを有する者の受入を行う。 1. 自然科学および専門領域における基礎的な学力を有する者。 2. 国内外における科学・技術を理解するための語学力を有する者。 3. 研究者・技術者としての責任を理解した上で、専門領域における問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者。 [基礎理工学専攻] 基礎理工学専攻では、数学または物理学の専門領域における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者の受入を行う。 [電子システム専攻] 電子システム専攻では、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者の受入を行う。 [機械システム専攻] 機械システム専攻では、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者の受入を行う。

[環境都市専攻] 環境都市専攻では、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者の受入を行う。	[都市システム専攻] 都市システム専攻では、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者の受入を行う。
---	---

4. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）新旧対照表

旧	新
教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー） 博士課程前期課程では、教育目標を踏まえ、次のような教育課程編成を行う。科目分野として、「共通科目」、「専門科目」、「研究科目」を設定し、これらの科目を体系的に学修することによって、教育目標が達成される。なお、各科目の設定意義は下記の通りである。 1.「共通科目」は、自然科学における確かな知識と研究力を社会で活かす力および外国語によるコミュニケーション力を養成するために配置された科目である。 2.「専門科目」は、専門領域における確かな知識を養成するために配置された科目である。 3.「研究科目」は、専門領域における研究能力、日本語によるプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力、問題設定・解決能力を養成するために配置された科目である。 [基礎理工学専攻] 基礎理工学専攻数理科学コースでは、数学の専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する（修士（理学））。または研究内容についてより工学に重点を置くカリキュラムを編成する（修士（工学））。 基礎理工学専攻物理科学コースでは、物理学の専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する（修士（理学））。	教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー） 博士課程前期課程では、教育目標を踏まえ、次のような教育課程編成を行う。科目分野として、「共通科目」、「専門科目」、「研究科目」を設定し、これらの科目を体系的に学修することによって、教育目標が達成される。なお、各科目の設定意義は下記の通りである。 1.「共通科目」は、自然科学における確かな知識と研究力を社会で活かす力および外国語によるコミュニケーション力を養成するために配置された科目である。 2.「専門科目」は、専門領域における確かな知識を養成するために配置された科目である。 3.「研究科目」は、専門領域における研究能力、日本語によるプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力、問題設定・解決能力を養成するために配置された科目である。 [基礎理工学専攻] 基礎理工学専攻数理科学コースでは、数学の専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する（修士（理学））。または研究内容についてより工学に重点を置くカリキュラムを編成する（修士（工学））。 基礎理工学専攻物理科学コースでは、物理学の専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する（修士（理学））。

[電子システム専攻] 電子システム専攻では、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。 [機械システム専攻] 機械システム専攻では、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。 [環境都市専攻] 環境都市専攻では、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。	[電子システム専攻] 電子システム専攻では、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。 [機械システム専攻] 機械システム専攻では、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。 [都市システム専攻] 都市システム専攻では、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
---	---

5. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 新旧対照表

旧	新
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 博士課程前期課程では、理工学研究科が定める各専攻の所定の単位を修得し、博士課程前期課程における学位論文評価基準に基づく審査に合格したことをもって、<u>また、環境都市専攻建築都市デザインコーススタジオデザインプログラムにおいて理工学修士設計1と理工学修士設計2を履修する者については、当該専攻の所定の単位を修得し、特定課題研究評価基準に基づく審査に合格したことをもって、以下の全ての教育目標を達成したとみなし、修士学位の授与を行う。</u> 1. 自然科学および専門領域における確かな知識と研究能力を有する者。 2. 日本語による論理的文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力および外国語によるコミュニケーション能力を有する者。 3. 研究者・技術者としての責任を自覚した上で、専門領域における問題設定・解決能力を有する者。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 博士課程前期課程では、理工学研究科が定める各専攻の所定の単位を修得し、博士課程前期課程における学位論文評価基準に基づく審査に合格したことをもって、以下の全ての教育目標を達成したとみなし、修士学位の授与を行う。 1. 自然科学および専門領域における確かな知識と研究能力を有する者。 2. 日本語による論理的文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力および外国語によるコミュニケーション能力を有する者。 3. 研究者・技術者としての責任を自覚した上で、専門領域における問題設定・解決能力を有する者。

[基礎理工学専攻] 基礎理工学専攻数理科学コースでは、数学の専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（理学）、または学位論文が工学的内容を含むと認められた場合には修士（工学）の学位授与を行う。基礎理工学専攻物理科学コースでは、物理学の専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（理学）の学位授与を行う。 [電子システム専攻] 電子システム専攻では、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（工学）の学位授与を行う。 [機械システム専攻] 機械システム専攻では、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（工学）の学位授与を行う。 [環境都市専攻] 環境都市専攻では、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（工学）の学位授与を行う。 <学位論文評価基準> 研究科にて定めた学位申請基準を満たして提出された学位論文に対し、教育目標が達成されているかを基準に評価を行う。<u>また、環境都市専攻建築都市デザインコーススタジオデザインプログラムにおける特定課題研究の評価基準は学位論文評価基準に準じる。</u>	[基礎理工学専攻] 基礎理工学専攻数理科学コースでは、数学の専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（理学）、または<u>数理科学コースの開講講義科目のうち、「数理統計学特論」の単位を修得し、かつ</u>学位論文が工学的内容を含むと認められた場合には修士（工学）の学位授与を行う。基礎理工学専攻物理科学コースでは、物理学の専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（理学）の学位授与を行う。 [電子システム専攻] 電子システム専攻では、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（工学）の学位授与を行う。 [機械システム専攻] 機械システム専攻では、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（工学）の学位授与を行う。 [都市システム専攻] 都市システム専攻では、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者に修士（工学）の学位授与を行う。 <学位論文評価基準> 研究科にて定めた学位申請基準を満たして提出された学位論文に対し、教育目標が達成されているかを基準に評価を行う。
--	---

【資料10】理工学研究科 授業科目の新旧表

■博士課程前期課程 共通科目・研究科横断科目

		2020カリキュラム						2026カリキュラム							
科目分野		科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	変更内容	
共通	4単位以上	5688	科学技術表現	2	講義	選択	1・2	5688	科学技術表現	2	講義	選択	1・2		
		20163	政策・技術特論	2	講義	選択	1・2	20163	政策・技術特論	2	講義	選択	1・2		
		20166	技術革新と高度産業社会	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
		20165	技術経営特論	2	講義	選択	1・2	20165	技術経営特論	2	講義	選択			
		20167	実践英語プレゼンテーション	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
		20168	実践英語ライティング	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
		—	—	—	—	—	—	新	上級科学英語ライティング技法	2	講義	選択	1・2	新設	
		—	—	—	—	—	—	新	上級科学英語プレゼンテーション技法	2	講義	選択	1・2	新設	
		20164	知的所有権特論	2	講義	選択	1・2	20164	知的所有権特論	2	講義	選択	1・2		
		23278	基礎数理統計	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
		23276	データ計測とシミュレーション	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
		—	—	—	—	—	—	新	データ解析とシミュレーション	2	講義	選択	1・2	新設	
		23277	データ計測とシミュレーション演習	2	演習	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
		14556	特殊講義（共通）	2	講義	選択	1・2	14556	特殊講義（共通）	2	講義	選択	1・2		
		18073	国内実習	2	実験・実習	選択	1・2	18073	国内実習	2	実験・実習	選択	1・2		
		18074	海外実習	2	実験・実習	選択	1・2	18074	海外実習	2	実験・実習	選択	1・2		
		18076	単位互換履修科目（共通）	1	講義	選択	1・2	18076	単位互換履修科目（共通）	1	講義	選択	1・2		
		18077	単位互換履修科目（共通）	2	講義	選択	1・2	18077	単位互換履修科目（共通）	2	講義	選択	1・2		
		18078	単位互換履修科目（共通）	3	講義	選択	1・2	18078	単位互換履修科目（共通）	3	講義	選択	1・2		
		18079	単位互換履修科目（共通）	4	講義	選択	1・2	18079	単位互換履修科目（共通）	4	講義	選択	1・2		
研究科横断	—	新	大学教員準備セミナー	2	講義	自由	1・2	新	大学教員準備セミナー	2	講義	自由	1・2		

■博士課程前期課程
 基礎理工学専攻
 数理科学コース
 （日本語基準）

		2020カリキュラム						2026カリキュラム							
科目分野		科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	変更内容	
専門科目	10単位以上	18175	数学表現法特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
		—	—	—	—	—	—	新	数学表現法特論 1（＊）	2	講義	選択	1・2	新設、教職認定科目に追加	
		—	—	—	—	—	—	新	数学表現法特論 2（＊）	2	講義	選択	1・2	新設、教職認定科目に追加	
		—	—	—	—	—	—	新	数理統計学特論（＊）	2	講義	選択	1・2	新設 学位（工学）授与判定科目 教職認定科目に追加	
		18178	数理科学特論 1	2	講義	選択	1・2	18178	数理科学特論 1	2	講義	選択	1・2		
		18179	数理科学特論 2	2	講義	選択	1・2	18179	数理科学特論 2	2	講義	選択	1・2		
		18180	数理科学特論 3	2	講義	選択	1・2	18180	数理科学特論 3	2	講義	選択	1・2		
		18181	数理科学特論 4	2	講義	選択	1・2	18181	数理科学特論 4	2	講義	選択	1・2		
		18182	数理科学特論 5	2	講義	選択	1・2	18182	数理科学特論 5（＊）	2	講義	選択	1・2		
		18183	数理科学特論 6	2	講義	選択	1・2	18183	数理科学特論 6（＊）	2	講義	選択	1・2		
		18204	数理科学特論 7	2	講義	選択	1・2	18204	数理科学特論 7（＊）	2	講義	選択	1・2		
		18184	数理科学特論 8	2	講義	選択	1・2	18184	数理科学特論 8（＊）	2	講義	選択	1・2		
		18176	数理科学特殊講義 1	2	講義	選択	1・2	18176	数理科学特殊講義 1	2	講義	選択	1・2		
		18177	数理科学特殊講義 2	2	講義	選択	1・2	18177	数理科学特殊講義 2	2	講義	選択	1・2		
		—	—	—	—	—	—	新	数理科学集中講義 1（＊）	2	講義	選択	1・2	新設、教職認定科目に追加	
		—	—	—	—	—	—	新	数理科学集中講義 2（＊）	2	講義	選択	1・2	新設、教職認定科目に追加	
		10541	特殊講義	2	講義	選択	1・2	新	特殊講義（専門）	2	講義	選択	1・2	名称変更	
		15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2		
		15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2		
		15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2		
		15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2		
研究科目	16単位	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1		
		18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1		
		18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2		
		18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2		

（＊）＝開講言語が英語

■博士課程前期課程
 基礎理工学専攻
 物理科学コース

		2020カリキュラム						2026カリキュラム						変更内容
科目分野		科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	
専門科目	10単位以上	23279	物理英語	2	講義	選択	1・2	23279	物理英語	2	講義	選択	1・2	
		18207	理論物理学特論 1	2	講義	選択	1・2	18207	理論物理学特論 1	2	講義	選択	1・2	
		18208	理論物理学特論 2	2	講義	選択	1・2	18208	理論物理学特論 2	2	講義	選択	1・2	
		18209	理論物理学特論 3	2	講義	選択	1・2	18209	理論物理学特論 3	2	講義	選択	1・2	
		18210	理論物理学特論 4	2	講義	選択	1・2	18210	理論物理学特論 4	2	講義	選択	1・2	
		18211	理論物理学特論 5	2	講義	選択	1・2	18211	理論物理学特論 5	2	講義	選択	1・2	
		18198	実験物理学特論 1	2	講義	選択	1・2	18198	実験物理学特論 1	2	講義	選択	1・2	
		18199	実験物理学特論 2	2	講義	選択	1・2	18199	実験物理学特論 2	2	講義	選択	1・2	
		18200	実験物理学特論 3	2	講義	選択	1・2	18200	実験物理学特論 3	2	講義	選択	1・2	
		18201	実験物理学特論 4	2	講義	選択	1・2	18201	実験物理学特論 4	2	講義	選択	1・2	
		18202	実験物理学特論 5	2	講義	選択	1・2	18202	実験物理学特論 5	2	講義	選択	1・2	
		18203	実験物理学特論 6	2	講義	選択	1・2	18203	実験物理学特論 6	2	講義	選択	1・2	
		20893	実験物理学特論 7	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		18191	物理学集中講義 1	2	講義	選択	1・2	18191	物理学集中講義 1	2	講義	選択	1・2	
		18192	物理学集中講義 2	2	講義	選択	1・2	18192	物理学集中講義 2	2	講義	選択	1・2	
		18205	地球物理学特論 1	2	講義	選択	1・2	18205	地球物理学特論 1	2	講義	選択	1・2	
		18206	地球物理学特論 2	2	講義	選択	1・2	18206	地球物理学特論 2	2	講義	選択	1・2	
		5775	材料強度学特論	2	講義	選択	1・2	5775	材料強度学特論	2	講義	選択	1・2	
		8372	流体力学特論	2	講義	選択	1・2	新	環境エネルギー工学特論	2	講義	選択	1・2	名称変更、科目概要変更
		13988	固体力学特論	2	講義	選択	1・2	13988	固体力学特論	2	講義	選択	1・2	
		5841	地盤工学特論	2	講義	選択	1・2	5841	地盤工学特論	2	講義	選択	1・2	
		10541	特殊講義	2	講義	選択	1・2	新	特殊講義（専門）	2	講義	選択	1・2	名称変更
		15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	
		15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	
		15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	
		15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	
研究科目	16単位	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	教職認定科目に追加
		18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	教職認定科目に追加
		18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	教職認定科目に追加
		18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	教職認定科目に追加

■博士課程前期課程
 電子システム専攻
 電子システムコース
 （日本語基準）

		2020カリキュラム						2026カリキュラム						
科目分野		科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	変更内容
専門科目	10単位以上	5773	光電子デバイス特論	2	講義	選択	1・2	新	電子デバイス特論	2	講義	選択	1・2	名称変更
		18185	データ解析特論	2	講義	選択	1・2	18185	データ解析特論	2	講義	選択	1・2	
		20894	パワーシステム特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除
		20895	制御工学特論	2	講義	選択	1・2	20895	制御工学特論（＊）	2	講義	選択	1・2	開講言語を英語に変更
		20896	微細電子デバイス特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除
		20897	レーザー応用光学特論	2	講義	選択	1・2	新	光・電磁波工学特論	2	講義	選択	1・2	名称変更
		18166	L S I 回路設計特論	2	講義	選択	1・2	18166	L S I 回路設計特論	2	講義	選択	1・2	教職認定科目に追加
		10059	光情報通信特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		22246	L S I 設計自動化特論	2	講義	選択	1・2	22246	L S I 設計自動化特論	2	講義	選択	1・2	教職認定科目に追加
		22245	画像処理特論	2	講義	選択	1・2	22245	画像処理特論	2	講義	選択	1・2	
		22243	知的システム技術特論	2	講義	選択	1・2	22243	知的システム技術特論（＊）	2	講義	選択	1・2	開講言語を英語に変更 教職認定科目に追加
		22244	組込みシステム特論	2	講義	選択	1・2	22244	組込みシステム特論（＊）	2	講義	選択	1・2	開講言語を英語に変更
		20898	応用数学特論	2	講義	選択	1・2	20898	応用数学特論	2	講義	選択	1・2	
		10397	電磁界特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除
		10529	回路特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除
		20899	量子エレクトロニクス特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除
		5793	パワーエレクトロニクス特論	2	講義	選択	1・2	5793	パワーエレクトロニクス特論	2	講義	選択	1・2	
		5898	信号処理特論	2	講義	選択	1・2	5898	信号処理特論	2	講義	選択	1・2	
		8513	計測特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除
		18196	画像デバイス特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除
		5881	通信システム特論	2	講義	選択	1・2	5881	通信システム特論	2	講義	選択	1・2	教職認定科目に追加
		18170	計算機構成特論	2	講義	選択	1・2	18170	計算機構成特論	2	講義	選択	1・2	教職認定科目に追加
		23280	情報セキュリティ特論	2	講義	選択	1・2	23280	情報セキュリティ特論	2	講義	選択	1・2	教職認定科目に追加
		23281	エネルギーマネジメント特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		10541	特殊講義	2	講義	選択	1・2	新	特殊講義（専門）	2	講義	選択	1・2	名称変更
		15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	
		15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	
		15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	
		15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	
研究科目	16単位	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	
		18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	
		18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	
		18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	

（＊）＝開講言語が英語

■博士課程前期課程
 機械システム専攻
 機械工学コース
 （日本語基準）

				2020カリキュラム					2026カリキュラム							
科目分野				科目CD	科目名	単 位 数	授業方法	必修・ 選択・ 自由の 別	配当年次	科目CD	科目名	単 位 数	授業方法	必修・ 選択・ 自由の 別	配当年次	変更内容
専門 科目	コース 基幹 科目	6単位 以上		10400	解析力学特論	2	講義	選択	1・2	10400	解析力学特論（＊）	2	講義	選択	1・2	
				23282	プロセス工学特論	2	講義	選択	1・2	23282	プロセス工学特論	2	講義	選択	1・2	
				13988	固体力学特論	2	講義	選択	1・2	13988	固体力学特論	2	講義	選択	1・2	
				5775	材料強度学特論	2	講義	選択	1・2	5775	材料強度学特論	2	講義	選択	1・2	
				10051	システム制御特論	2	講義	選択	1・2	10051	システム制御特論	2	講義	選択	1・2	
				14020	バイオエンジニアリング特論	2	講義	選択	1・2	新	医療・健康情報学特論（＊）	2	講義	選択	1・2	名称変更、開講言語を英語に変更
				14018	熱工学特論	2	講義	選択	1・2	14018	熱工学特論	2	講義	選択	1・2	
				18188	非線形動力学特論	2	講義	選択	1・2	18188	非線形動力学特論	2	講義	選択	1・2	
				8514	マイクロマシン特論	2	講義	選択	1・2	8514	マイクロマシン特論	2	講義	選択	1・2	
				8372	流体力学特論	2	講義	選択	1・2	新	環境エネルギー工学特論	2	講義	選択	1・2	名称変更、科目概要変更
	コース 関連 科目	10単位 以上		10052	ハンドリング工学特論	2	講義	選択	1・2	10052	ハンドリング工学特論	2	講義	選択	1・2	
				18193	マイクロ科学特論	2	講義	選択	1・2	18193	マイクロ科学特論	2	講義	選択	1・2	
				8348	マイクロ加工学特論	2	講義	選択	1・2	8348	マイクロ加工学特論	2	講義	選択	1・2	
				23283	センシングシステム特論	2	講義	選択	1・2	23283	センシングシステム特論	2	講義	選択	1・2	
				10057	ライフサポート工学特論	2	講義	選択	1・2	10057	ライフサポート工学特論	2	講義	選択	1・2	
				18194	ロボット制御特論	2	講義	選択	1・2	18194	ロボット制御特論（＊）	2	講義	選択	1・2	
				18195	ロボットメカニズム特論	2	講義	選択	1・2	18195	ロボットメカニズム特論	2	講義	選択	1・2	
				10541	特殊講義	2	講義	選択	1・2	新	特殊講義（専門）	2	講義	選択	1・2	名称変更
				15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	15207	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	
				15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	
				15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	15209	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	
				15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	15210	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	
研究科目		16単位		18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	18571	理工学特殊研究 1	2	演習	必修	1	
				18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	18572	理工学特殊研究 2	2	演習	必修	1	
				18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	18573	理工学特殊研究 3	1	演習	必修	2	
				18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	18574	理工学特殊研究 4	2	演習	必修	2	

（＊）＝開講言語が英語

■博士課程前期課程 機械システム専攻 ロボティクスコース （日本語基準）

				2020カリキュラム				2026カリキュラム								
科目分野				科目CD	科目名	単 位 数	授業方法	必修・ 選択・ 自由の 別	配当年次	科目CD	科目名	単 位 数	授業方法	必修・ 選択・ 自由の 別	配当年次	変更内容
専門 科目	コース 基幹 科目	6単位 以上	10400	解析力学特論	2	講義	選択	1・2	10400	解析力学特論（＊）	2	講義	選択	1・2		
			10051	システム制御特論	2	講義	選択	1・2	10051	システム制御特論	2	講義	選択	1・2		
			14020	バイオエンジニアリング特論	2	講義	選択	1・2	新	医療・健康情報学特論（＊）	2	講義	選択	1・2	名称変更、開講言語を英語に変更	
			10052	ハンドリング工学特論	2	講義	選択	1・2	10052	ハンドリング工学特論	2	講義	選択	1・2		
			18188	非線形動力学特論	2	講義	選択	1・2	18188	非線形動力学特論	2	講義	選択	1・2		
			8514	マイクロマシン特論	2	講義	選択	1・2	8514	マイクロマシン特論	2	講義	選択	1・2		
			23283	センシングシステム特論	2	講義	選択	1・2	23283	センシングシステム特論	2	講義	選択	1・2		
			10057	ライフサポート工学特論	2	講義	選択	1・2	10057	ライフサポート工学特論	2	講義	選択	1・2		
			18194	ロボット制御特論	2	講義	選択	1・2	18194	ロボット制御特論（＊）	2	講義	選択	1・2		
			18195	ロボットメカニズム特論	2	講義	選択	1・2	18195	ロボットメカニズム特論	2	講義	選択	1・2		
	コース 関連 科目	10単位 以上	18176	数理科学特殊講義 1	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			18177	数理科学特殊講義 2	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			18185	データ解析特論	2	講義	選択	1・2	18185	データ解析特論	2	講義	選択	1・2		
			22245	画像処理特論	2	講義	選択	1・2	22245	画像処理特論	2	講義	選択	1・2		
			22243	知的システム技術特論	2	講義	選択	1・2	22243	知的システム技術特論	2	講義	選択	1・2		
			22244	組込みシステム特論	2	講義	選択	1・2	22244	組込みシステム特論	2	講義	選択	1・2		
			20898	応用数学特論	2	講義	選択	1・2	20898	応用数学特論	2	講義	選択	1・2		
			10529	回路特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			5793	パワーエレクトロニクス特論	2	講義	選択	1・2	5793	パワーエレクトロニクス特論	2	講義	選択	1・2		
			5898	信号処理特論	2	講義	選択	1・2	5898	信号処理特論	2	講義	選択	1・2		
			8513	計測特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			18196	画像デバイス特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			5775	材料強度学特論	2	講義	選択	1・2	5775	材料強度学特論	2	講義	選択	1・2		
			14018	熱工学特論	2	講義	選択	1・2	14018	熱工学特論	2	講義	選択	1・2		
			8372	流体力学特論	2	講義	選択	1・2	新	環境エネルギー工学特論	2	講義	選択	1・2	名称変更、科目概要変更	
			13988	固体力学特論	2	講義	選択	1・2	13988	固体力学特論	2	講義	選択	1・2		
			8348	マイクロ加工学特論	2	講義	選択	1・2	8348	マイクロ加工学特論	2	講義	選択	1・2		
			18193	マイクロ科学特論	2	講義	選択	1・2	18193	マイクロ科学特論	2	講義	選択	1・2		
			14035	分散システム特論	2	講義	選択	1・2	14035	分散システム特論	2	講義	選択	1・2		
			14012	知能システム特論	2	講義	選択	1・2	14012	知能システム特論	2	講義	選択	1・2		
			14019	脳機能情報処理特論	2	講義	選択	1・2	14019	脳機能情報処理特論	2	講義	選択	1・2		
			17947	生体情報処理特論	2	講義	選択	1・2	17947	生体情報処理特論	2	講義	選択	1・2		
			17945	ヒューマンインタフェース特論	2	講義	選択	1・2	17945	ヒューマンインタフェース特論	2	講義	選択	1・2		
			17941	ビジュアルコンピューティング特論	2	講義	選択	1・2	17941	ビジュアルコンピューティング特論	2	講義	選択	1・2		
23282	プロセス工学特論	2	講義	選択	1・2	23282	プロセス工学特論	2	講義	選択	1・2					
15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2					
15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2					
15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2					
15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2					
10541	特殊講義	2	講義	選択	1・2	新	特殊講義（専門）	2	講義	選択	1・2	名称変更				
研究 科目	16単位			18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	
				18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	
				18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	
				18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	

（＊）＝開講言語が英語

■博士課程前期課程 機械システム専攻 マイクロ機械コース （日本語基準）

				2020カリキュラム					2026カリキュラム							
科目分野				科目CD	科目名	単 位 数	授業方法	必修・ 選択・ 自由の 別	配当年次	科目CD	科目名	単 位 数	授業方法	必修・ 選択・ 自由の 別	配当年次	変更内容
専門 科目	コース 基幹 科目	6単位 以上	10400	解析力学特論	2	講義	選択	1・2	10400	解析力学特論（＊）	2	講義	選択	1・2		
			23282	プロセス工学特論	2	講義	選択	1・2	23282	プロセス工学特論	2	講義	選択	1・2		
			13988	固体力学特論	2	講義	選択	1・2	13988	固体力学特論	2	講義	選択	1・2		
			10051	システム制御特論	2	講義	選択	1・2	10051	システム制御特論	2	講義	選択	1・2		
			14020	バイオエンジニアリング特論	2	講義	選択	1・2	新	医療・健康情報学特論（＊）	2	講義	選択	1・2	科目名称変更、 開講言語を英語に変更	
			18188	非線形動力学特論	2	講義	選択	1・2	18188	非線形動力学特論	2	講義	選択	1・2		
			18193	マイクロ科学特論	2	講義	選択	1・2	18193	マイクロ科学特論	2	講義	選択	1・2		
			8348	マイクロ加工学特論	2	講義	選択	1・2	8348	マイクロ加工学特論	2	講義	選択	1・2		
			8514	マイクロマシン特論	2	講義	選択	1・2	8514	マイクロマシン特論	2	講義	選択	1・2		
	コース 関連 科目	10単位 以上	20896	微細電子デバイス特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			10529	回路特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			5775	材料強度学特論	2	講義	選択	1・2	5775	材料強度学特論	2	講義	選択	1・2		
			14018	熱工学特論	2	講義	選択	1・2	14018	熱工学特論	2	講義	選択	1・2		
			8372	流体力学特論	2	講義	選択	1・2	新	環境エネルギー工学特論	2	講義	選択	1・2	名称変更、科目概要変更	
			23283	センシングシステム特論	2	講義	選択	1・2	23283	センシングシステム特論	2	講義	選択	1・2		
			18195	ロボットメカニズム特論	2	講義	選択	1・2	18195	ロボットメカニズム特論	2	講義	選択	1・2		
			10057	ライフサポート工学特論	2	講義	選択	1・2	10057	ライフサポート工学特論	2	講義	選択	1・2		
			10052	ハンドリング工学特論	2	講義	選択	1・2	10052	ハンドリング工学特論	2	講義	選択	1・2		
			18194	ロボット制御特論	2	講義	選択	1・2	18194	ロボット制御特論（＊）	2	講義	選択	1・2		
			15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2		
			15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2		
			15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2		
			15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2		
			10541	特殊講義	2	講義	選択	1・2	新	特殊講義（専門）	2	講義	選択	1・2	名称変更	
研究 科目	16単位	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1			
		18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1			
		18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2			
		18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2			

（＊）＝開講言語が英語

■博士課程前期課程
 都市システム専攻
 環境都市工学コース
 （日本語基準）

		2020カリキュラム								2026カリキュラム							
科目分野		科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	都市	環境	環境工学都市	科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	変更内容
専門科目	10単位以上	18168	維持管理工学特論	2	講義	選択	1・2	○	○	○	18168	維持管理工学特論	2	講義	選択	1・2	
		5833	河川工学特論	2	講義	選択	1・2	○	○	○	5833	河川工学特論	2	講義	選択	1・2	
		5839	建設材料学特論	2	講義	選択	1・2		○	○	5839	建設材料学特論	2	講義	選択	1・2	
		5841	地盤工学特論	2	講義	選択	1・2	○	○	○	5841	地盤工学特論	2	講義	選択	1・2	
		18186	都市・地域計画特論	2	講義	選択	1・2	○	○	○	18186	都市・地域計画特論	2	講義	選択	1・2	
		8436	景観・都市環境特論	2	講義	選択	1・2		○	○	新	環境科学特論	2	講義	選択	1・2	名称変更、科目概要変更
		5813	環境システム特論	2	講義	選択	1・2		○	○	5813	環境システム特論	2	講義	選択	1・2	開講言語を日本語に変更
		13968	環境政策特論	2	講義	選択	1・2		○	○	13968	環境政策特論	2	講義	選択	1・2	
		13967	環境技術特論	2	講義	選択	1・2		○	○	13967	環境技術特論（＊）	2	講義	選択	1・2	
		18187	都市デザイン特論	2	講義	選択	1・2	○		○	18187	都市デザイン特論	2	講義	選択	1・2	
		13956	応用ベクトル解析特論	2	講義	選択	1・2	○	○	○	13956	応用ベクトル解析特論（＊）	2	講義	選択	1・2	
		17140	ランドスケープ特論	2	講義	選択	1・2	○		-	—	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除
		14032	文化財防災学特論	2	講義	選択	1・2	○		○	14032	文化財防災学特論	2	講義	選択	1・2	
		14031	文化遺産保存計画論	2	講義	選択	1・2	○		○	14031	文化遺産保存計画論	2	講義	選択	1・2	
		16425	歴史都市災害史	2	講義	選択	1・2	○		○	16425	歴史都市災害史	2	講義	選択	1・2	
		16424	文化遺産防災計画論	2	講義	選択	1・2	○		○	16424	文化遺産防災計画論	2	講義	選択	1・2	
		16423	文化遺産防災技術論	2	講義	選択	1・2	○		○	16423	文化遺産防災技術論	2	講義	選択	1・2	
		8421	構造力学特論	2	講義	選択	1・2	○	○	○	8421	構造力学特論	2	講義	選択	1・2	
		18171	構造設計学特論	2	講義	選択	1・2	○	○	-	—	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除
		8415	水理学特論	2	講義	選択	1・2	○	○	○	8415	水理学特論（＊）	2	講義	選択	1・2	
		5850	交通システム特論	2	講義	選択	1・2	○	○	○	5850	交通システム特論	2	講義	選択	1・2	
		15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	○	○	○	15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	
		15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	○	○	○	15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	
		15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	○	○	○	15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	
		15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	○	○	○	15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	
		10541	特殊講義	2	講義	選択	1・2	○	○	○	新	特殊講義（専門）	2	講義	選択	1・2	名称変更
研究科目	16単位	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	○	○	○	18571	理工学特殊研究 1	4	演習	必修	1	
		18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	○	○	○	18572	理工学特殊研究 2	4	演習	必修	1	
		18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	○	○	○	18573	理工学特殊研究 3	4	演習	必修	2	
		18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	○	○	○	18574	理工学特殊研究 4	4	演習	必修	2	

（＊）＝開講言語が英語

■博士課程前期課程
 都市システム専攻
 建築都市デザインコース
 （日本語基準）

				2020カリキュラム					2026カリキュラム							
科目分野				科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	変更内容
専門科目	A群	4単位以上	13981	建築デザイン特論	2	講義	選択	1・2	13981	建築デザイン特論	2	講義	選択	1・2		
			18187	都市デザイン特論	2	講義	選択	1・2	18187	都市デザイン特論	2	講義	選択	1・2		
			17140	ランドスケープ特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除		
			8421	構造力学特論	2	講義	選択	1・2	8421	構造力学特論	2	講義	選択	1・2		
			13980	建築環境工学特論	2	講義	選択	1・2	13980	建築環境工学特論	2	講義	選択	1・2		
			18168	維持管理工学特論	2	講義	選択	1・2	18168	維持管理工学特論	2	講義	選択	1・2		
			18171	構造設計学特論	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	廃止 教職認定科目から削除		
			18186	都市・地域計画特論	2	講義	選択	1・2	18186	都市・地域計画特論	2	講義	選択	1・2		
			5839	建設材料学特論	2	講義	選択	1・2	5839	建設材料学特論	2	講義	選択	1・2		
			10541	特殊講義	2	講義	選択	1・2	新	特殊講義（専門）	2	講義	選択	1・2	名称変更	
			15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2	15207	単位互換履修科目（専門）	1	講義	選択	1・2		
			15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2	15208	単位互換履修科目（専門）	2	講義	選択	1・2		
			15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2	15209	単位互換履修科目（専門）	3	講義	選択	1・2		
			15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2	15210	単位互換履修科目（専門）	4	講義	選択	1・2		
	B群	10単位以上	20169	スタジオ実習1	6	実験・実習	選択 ※SDPのみ	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			20170	スタジオ実習2	6	実験・実習	選択 ※SDPのみ	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			20211	プロジェクト実習1	1	実験・実習	選択 ※SDPのみ	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			20212	プロジェクト実習2	1	実験・実習	選択 ※SDPのみ	2	—	—	—	—	—	—	廃止	
			17137	建築インターンシップ実習	4	実験・実習	選択 ※SDP以外	1・2	17137	建築インターンシップ実習	4	実験・実習	選択	1・2		
			17138	建築設計演習1	2	演習	選択	1・2	17138	建築設計演習1	2	演習	選択	1・2		
			17139	建築設計演習2	2	演習	選択	1・2	17139	建築設計演習2	2	演習	選択	1・2		
			23284	建築設計演習3	2	演習	選択	2	23284	建築設計演習3	2	演習	選択	2		
			23285	建築設計演習4	2	演習	選択	2	23285	建築設計演習4	2	演習	選択	2		
研究科目	16単位	18571	理工学特殊研究1	4	演習	必修	1	18571	理工学特殊研究1	4	演習	必修	1			
		18572	理工学特殊研究2	4	演習	必修	1	18572	理工学特殊研究2	4	演習	必修	1			
		18573	理工学特殊研究3	4	演習	選択	2	18573	理工学特殊研究3	4	演習	必修	2			
		18574	理工学特殊研究4	4	演習	選択	2	18574	理工学特殊研究4	4	演習	必修	2			
		20171	理工学修士設計1	4	演習 ※SDPのみ	選択	2	—	—	—	—	—	—	廃止		
		20172	理工学修士設計2	4	演習 ※SDPのみ	選択	2	—	—	—	—	—	—	廃止		

2020カリキュラム							2026カリキュラム						
科目分野	科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	変更内容
共通科目	4単位以上	5688 科学技術表現 Presentation in Science and Engineering	2	講義	選択	1・2	5688 科学技術表現 Presentation in Science and Engineering	2	講義	選択	1・2		
		20165 技術経営特論 Advanced Technology Management	2	講義	選択	1・2	20165 技術経営特論 Advanced Technology Management	2	講義	選択	1・2		
		20164 知的所有権特論 Advanced Intellectual Property	2	講義	選択	1・2	20164 知的所有権特論 Advanced Intellectual Property	2	講義	選択	1・2		
		23278 基礎数理統計 Mathematical Statistics	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		18073 国内実習 Field Work	2	実験・実習	選択	1・2	18073 国内実習 Field Work	2	実験・実習	選択	1・2		
		18074 海外実習 Study Abroad	2	実験・実習	選択	1・2	18074 海外実習 Study Abroad	2	実験・実習	選択	1・2		
		14556 特殊講義（共通） Special Topics (Common Subjects)	2	講義	選択	1・2	14556 特殊講義（共通） Special Topics (Common Subjects)	2	講義	選択	1・2		
		19477 科学技術日本語1 Technical Japanese 1	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		19478 科学技術日本語2 Technical Japanese 2	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		19479 応用科学技術日本語1 Applied Technical Japanese 1	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		19480 応用科学技術日本語2 Applied Technical Japanese 2	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		—	—	—	—	—	新 科学技術日本語Ⅰ Technical Japanese I	2	講義	選択	1・2	1・2	新設
		—	—	—	—	—	新 科学技術日本語Ⅱ Technical Japanese II	2	講義	選択	1・2	1・2	新設
専門科目	10単位	18175 数学表現法特論 Advanced Topics in Mathematical Writing	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		—	—	—	—	—	新 数学表現法特論1 Advanced Topics in Mathematical Writing 1	2	講義	選択	1・2	1・2	新設
		—	—	—	—	—	新 数学表現法特論2 Advanced Topics in Mathematical Writing2	2	講義	選択	1・2	1・2	新設
		—	—	—	—	—	新 数理統計学特論 Advanced Topics in Mathematical Statistics	2	講義	選択	1・2	1・2	新設
		18182 数理科学特論5 Advanced Topics in Mathematical Science 5	2	講義	選択	1・2	18182 数理科学特論5 Advanced Topics in Mathematical Science 5	2	講義	選択	1・2	1・2	
		18183 数理科学特論6 Advanced Topics in Mathematical Science 6	2	講義	選択	1・2	18183 数理科学特論6 Advanced Topics in Mathematical Science 6	2	講義	選択	1・2	1・2	
		18204 数理科学特論7 Advanced Topics in Mathematical Science 7	2	講義	選択	1・2	18204 数理科学特論7 Advanced Topics in Mathematical Science 7	2	講義	選択	1・2	1・2	
		18184 数理科学特論8 Advanced Topics in Mathematical Science 8	2	講義	選択	1・2	18184 数理科学特論8 Advanced Topics in Mathematical Science 8	2	講義	選択	1・2	1・2	
		—	—	—	—	—	新 数理科学集中講義1 Mathematical Intensive Lectures 1	2	講義	選択	1・2	1・2	新設
		—	—	—	—	—	新 数理科学集中講義2 Mathematical Intensive Lectures 2	2	講義	選択	1・2	1・2	新設
		5773 光電子デバイス特論 Advanced Topics in Photonic and Electronic Devices	2	講義	選択	1・2	新 電子デバイス特論 Advanced Topics in Electronic Devices	2	講義	選択	1・2	1・2	科目名称変更
		20894 パワーシステム特論 Advanced Topics in Power System	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		20895 制御工学特論 Advanced Topics in Control Engineering	2	講義	選択	1・2	20895 制御工学特論 Advanced Topics in Control Engineering	2	講義	選択	1・2	1・2	
		20897 レーザー応用光学特論 Advanced Topics in Optics and Lasers	2	講義	選択	1・2	新 光・電磁波工学特論 Advanced Topics in Light and Electromagnetic Wave Engineering	2	講義	選択	1・2	1・2	科目名称変更
		18166 L S I 回路設計特論 Advanced Topics in LSI Circuit Design	2	講義	選択	1・2	18166 L S I 回路設計特論 Advanced Topics in LSI Circuit Design	2	講義	選択	1・2	1・2	
		22246 L S I 設計自動化特論 Advanced Topics in LSI Design Automation	2	講義	選択	1・2	22246 L S I 設計自動化特論 Advanced Topics in LSI Design Automation	2	講義	選択	1・2	1・2	
		—	—	—	—	—	22243 知的システム技術特論 Advanced Topics in Artificial Intelligence	2	講義	選択	1・2	1・2	英語基準カリキュラムに科目追加
		—	—	—	—	—	22244 組込みシステム特論 Advanced Topics in Embedded Systems	2	講義	選択	1・2	1・2	英語基準カリキュラムに科目追加
		20898 応用数学特論 Advanced Mathematics	2	講義	選択	1・2	20898 応用数学特論 Advanced Mathematics	2	講義	選択	1・2	1・2	
		10529 回路特論 Advanced Topics in Circuit Theory	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		20899 量子エレクトロニクス特論 Advanced Topics in Quantum Electronics	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		8513 計測特論 Special Lecture on Measurement Theory	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		18196 画像デバイス特論 Advanced Topics in Image Input/Output Devices	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		18170 計算機構成特論 Advanced Topics in Computer Architecture	2	講義	選択	1・2	18170 計算機構成特論 Advanced Topics in Computer Architecture	2	講義	選択	1・2	1・2	
		5868 人工知能特論 Advanced Topics in Artificial Intelligence	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		23280 情報セキュリティ特論 Advanced Topics in Cryptographic and Security Applications	2	講義	選択	1・2	23280 情報セキュリティ特論 Advanced Topics in Cryptographic and Security Applications	2	講義	選択	1・2	1・2	
		23281 エネルギーマネジメント特論 Advanced Topics in Energy Management	2	講義	選択	1・2	—	—	—	—	—	—	廃止
		14018 熱工学特論 Advanced Course of Thermal Engineering	2	講義	選択	1・2	14018 熱工学特論 Advanced Course of Thermal Engineering	2	講義	選択	1・2	1・2	
		10400 解析力学特論 Analytical Mechanics	2	講義	選択	1・2	10400 解析力学特論 Analytical Mechanics	2	講義	選択	1・2	1・2	
		13988 固体力学特論 Advanced Theory of Solid Mechanics	2	講義	選択	1・2	13988 固体力学特論 Advanced Theory of Solid Mechanics	2	講義	選択	1・2	1・2	
		14020 バイオエンジニアリング特論 Advanced Bioengineering	2	講義	選択	1・2	新 医療・健康情報学特論 Biomedical and Health Informatics	2	講義	選択	1・2	1・2	科目名称変更
		18195 ロボットメカニズム特論 Advanced Topics in Robot Mechanism	2	講義	選択	1・2	18195 ロボットメカニズム特論 Advanced Topics in Robot Mechanism	2	講義	選択	1・2	1・2	
		8514 マイクロマシン特論 Advanced Course of Micro Electro Mechanical System	2	講義	選択	1・2	8514 マイクロマシン特論 Advanced Course of Micro Electro Mechanical System	2	講義	選択	1・2	1・2	
		8348 マイクロ加工工学特論 Micromachining	2	講義	選択	1・2	8348 マイクロ加工工学特論 Micromachining	2	講義	選択	1・2	1・2	
		18194 ロボット制御特論 Advanced Topics in Robot Control	2	講義	選択	1・2	18194 ロボット制御特論 Advanced Topics in Robot Control	2	講義	選択	1・2	1・2	
		23282 プロセス工学特論 Advanced Topics in Process Engineering	2	講義	選択	1・2	23282 プロセス工学特論 Advanced Topics in Process Engineering	2	講義	選択	1・2	1・2	
		5813 環境システム特論 Environmental Systems	2	講義	選択	1・2	5813 環境システム特論 Environmental Systems	2	講義	選択	1・2	1・2	
		13968 環境政策特論 Environmental Management and Policy	2	講義	選択	1・2	13968 環境政策特論 Environmental Management and Policy	2	講義	選択	1・2	1・2	
		13967 環境技術特論 Environmental Engineering and Technology	2	講義	選択	1・2	13967 環境技術特論 Environmental Engineering and Technology	2	講義	選択	1・2	1・2	
		18187 都市デザイン特論 Advanced Topics in Urban Design	2	講義	選択	1・2	18187 都市デザイン特論 Advanced Topics in Urban Design	2	講義	選択	1・2	1・2	
		13980 建築環境工学特論 Advanced Course in Architectural Environment	2	講義	選択	1・2	13980 建築環境工学特論 Advanced Course in Architectural Environment	2	講義	選択	1・2	1・2	
		13956 応用ベクトル解析特論 Applied Vector Analysis	2	講義	選択	1・2	13956 応用ベクトル解析特論 Applied Vector Analysis	2	講義	選択	1・2	1・2	
		14032 文化財防災学特論 Protection of Cultural Heritage from Disasters	2	講義	選択	1・2	14032 文化財防災学特論 Protection of Cultural Heritage from Disasters	2	講義	選択	1・2	1・2	

科目分野		科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	科目CD	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次	変更内容
		8415	水理学特論 Advanced Hydraulics	2	講義	選択	1・2	8415	水理学特論 Advanced Hydraulics	2	講義	選択	1・2	
		5850	交通システム特論 Advanced Course in Transportation Systems	2	講義	選択	1・2	5850	交通システム特論 Advanced Course in Transportation Systems	2	講義	選択	1・2	
		10541	特殊講義（専門） Special Lectures	2	講義	選択	1・2	新	特殊講義（専門） Special Lectures	2	講義	選択	1・2	
研究科目	16単位	18571	理工学特殊研究1 Individual Research 1	4	演習	必修	1	18571	理工学特殊研究1 Individual Research 1	4	演習	必修	1	
		18572	理工学特殊研究2 Individual Research 2	4	演習	必修	1	18572	理工学特殊研究2 Individual Research 2	4	演習	必修	1	
		18573	理工学特殊研究3 Individual Research 3	4	演習	必修	2	18573	理工学特殊研究3 Individual Research 3	4	演習	必修	2	
		18574	理工学特殊研究4 Individual Research 4	4	演習	必修	2	18574	理工学特殊研究4 Individual Research 4	4	演習	必修	2	
研究科横断	—	新	大学教員準備セミナー Preparing Future Faculty Seminar	2	講義	自由	1・2	新	大学教員準備セミナー Preparing Future Faculty Seminar	2	講義	自由	1・2	

【資料11】

＜人間科学研究科博士課程前期課程の教学理念と人材育成目的、3ポリシー＞

1. 教学理念

人間科学研究科は、総合的な心理学をもとにして、人間それ自身の研究を拓き、対人援助・人間理解にかかわる関連分野の諸科学や多様に取り組まれている実践を包括する、広い意味での人間科学の創造をめざす。細分化している専門の深まりを、社会のなかの人間科学としての広がりの中で自らの研究主題を構築しなおす研究力を養い、社会のなかで生きる心理学・人間科学の創造をととして、学術と社会の発展に貢献する人間の育成を目指す。アカデミック人間科学とプロフェッショナル人間科学の往還をもとにした連携と統合を目標とする。

2. 人材育成目的

人間科学研究科は、心理学とその隣接領域の科学的、総合的知識にもとづいて包括的に人間を理解し、理論と実践を相互還流させる高度な技能と対応力を身につけることで、人々のニーズや社会的要請を適切に捉えて、学術と社会の発展に貢献することができる人材を育成することを目的とする。

人間科学研究科人間科学専攻博士課程前期課程に心理学領域、臨床心理学領域、実践人間科学領域の3領域を置き、心と行動の理論的、実証的研究および臨床と支援の実践的研究を行う。本課程は、これらの人間科学研究を通じて、国際的、かつ、総合的視野を持って学術の発展と社会の進歩、安寧に貢献できる人材の育成を目的とする。

3. 学位授与ポリシー（ディプロマ・ポリシー）

人間科学研究科では、人材育成目標に向けて、修了時において院生が身に付けるべき能力（教育目標）を、授与する学位ごとに定めている。研究科が規定する修了要件（所定の単位30単位と修士論文の審査に合格すること）を満たすことでその達成とみなし、教育目標（心理学）を達成したものには、修士（心理学）を、教育目標（人間科学）を達成したものには修士（人間科学）を授与する。そのために、修了時点において学生が身につけるべき能力（教育目標）として、心理学および人間科学の学位に即して、それぞれ下記の三点を定める。

①修士（心理学）

- ・心理学、臨床心理学の専門的知識をもとにして人間についての諸問題を科学的・総合的、歴史的にとらえることができる（知識・理解）
- ・心理学、臨床心理学についての専門的技能と対応力を習得し、理論と実践を相互還流させてとらえることができる（技能・表現）
- ・人びとのニーズや社会的要請を適切にとらえ、世界的な視野をもち新しい心理学、臨床心理学の創造に高いこころざしをもって挑戦することができる（価値・姿勢）

②修士（人間科学）

- ・人間科学の専門的知識をもとにして人間についての諸問題を科学的・総合的、歴史的にとらえることができる（知識・理解）
- ・人間科学についての専門的技能と対応力を習得し、理論と実践を相互還流させてとらえることができる（技能・表現）
- ・人びとのニーズや社会的要請を適切にとらえ、世界的な視野をもち新しい人間科学の創造

に高いところざしをもって挑戦することができる（価値・姿勢）

4. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） 新旧対照表

人間科学研究科は、心理学、臨床心理学、実践人間科学などに関する教育分野を創造し、こうした分野の研究者や高度専門職を担う人材の養成を通して、関連分野の新しい研究を推進することを目指す。本研究科は、このような研究科の理念に賛同し、博士課程前期課程及び同後期課程を通じて、高度な専門性の獲得をめざす下記のような条件を満たす人材を求める。

- ・心理学の基礎的分野、応用的分野、対人援助や人間理解に関する分野に関する基礎的知識を有し、こころ、行動、人間について総合的な視野をもつ者
- ・人間にかかわる問題を主体的に発見し、それを解決するために、科学的・客観的な方法を用いることに意欲と関心を持つ者
- ・人間にかかわる問題の解決のために、理論と実践を相互還流させてとらえる視点を有し、他者を尊重し、他者と協働する姿勢を有する者
- ・人間科学の国際的展開に積極的に参与していこうとする者

5. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー） 新旧対照表

旧	新
教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）	教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）
人間科学研究科では、人材育成目的（養成する人材像）と研究科の特色を具体化して、以下のように教育課程を編成する。	人間科学研究科では、人材育成目的（養成する人材像）と研究科の特色を具体化して、以下のように教育課程を編成する。
博士課程前期課程の教育課程編成 本研究科博士課程前期課程の科目は、「共通科目」「専門科目」に大区分する。 「専門科目」には中区分として「演習」「公認心理師」「領域専門」を置き、「領域専門」の配下に小区分として「心理学領域」、「臨床心理学領域」、「実践人間科学領域」を設ける。前期課程は、心理学、臨床心理学、実践人間科学の各分野において、理論的・基礎的な対象の理解と、応用的・実践的な知識の修得・活用が可能な課程として編成する。アカデミック人間科学とプロフェSSIONAL人間科学の架橋、往還、連携と統合が可能なように諸領域を構成し、領域固有の専門性と領域共通の人間科学として総合性を得ることができる課程として編成する。加えて	博士課程前期課程の教育課程編成 本研究科博士課程前期課程の科目は、「共通科目」「専門科目」に大区分する。 「専門科目」には中区分として「演習」「公認心理師共通実習」「領域専門」を置く。 「領域専門」は「心理学領域」、「臨床心理学領域」、「実践人間科学領域」にそれぞれ区分し、「心理学領域」には基礎心理学、教育・発達心理学、「実践人間科学領域」には多様性社会実践、対人援助実践、社会心理学実践の科目群を置く。 前期課程は、心理学、臨床心理学、実践人間科学の各分野において、理論的・基礎的な対象の理解と、応用的・実践的な知識の修得・活用が可能な課程として編成する。アカデミック人間科学とプロフェSSIONAL人間科学

前期課程では、3 領域にわたって厚生労働省の認定する公認心理師の受験資格認定プログラムに対応した科目を設定しており、所定の要件を満たし、課程を修了すると、公認心理師資格試験を受験することができる。このために、演習系科目、実習系科目、講義系科目をおき、自らの研究にかかわる知識、方法・理論、社会性が統合的に把握できるような教育課程として編成し、授与する学位ごとに編成方針を定める。 ①修士（心理学） 心理学領域、および臨床心理学領域では、その教育目標を達成することで修士（心理学）の学位を授与する。心理学領域では、<u>人間の心と行動に関する科学的研究の成果を踏まえ、独創的な先端的探究を進めることができるようなカリキュラムとする。伝統的心理学が蓄積してきた知的財産に基づく洞察の深化と新しい心理学がもたらす批判的・複合的視点の獲得、さらに、近接領域を取り込んだ心理学の拡張を目指す。臨床心理学領域では、（財）日本臨床心理士資格認定協会の定めるカリキュラムに対応した科目を設置し、所定の要件を満たしこの領域を修了すると、直近の臨床心理士資格試験を受験することができる。付属の心理・教育相談センターと学外での実習施設（医療分野、教育分野、福祉分野）で実習を行う。</u> ②修士（人間科学） 実践人間科学領域では、その教育目標を達成することで修士（人間科学）の学位を授与する。<u>多様性（ダイバーシティ）を選択できる社会づくり、ライフコース形成とケア、社会的イノベーションという相互に関連し合う観点をもとにした、PBL 探究型履修モデルを基本としたカリキュラムである。そのため、関連する講義科目とともに、学外実習を必修科目として履修し、それらの活動の個別の状</u>	の架橋、往還、連携と統合が可能のように諸領域を構成し、領域固有の専門性と領域共通の人間科学として総合性を得ることができる課程として編成する。加えて前期課程では、3 領域にわたって厚生労働省の認定する公認心理師の受験資格認定プログラムに対応した科目を設定しており、所定の要件を満たし、課程を修了すると、公認心理師資格試験を受験することができる。このために、演習系科目、実習系科目、講義系科目をおき、自らの研究にかかわる知識、方法・理論、社会性が統合的に把握できるような教育課程として編成し、授与する学位ごとに編成方針を定める。 (1)修士（心理学） 心理学領域、および臨床心理学領域では、その教育目標を達成することで修士（心理学）の学位を授与する。心理学領域では、<u>人間の心と行動に関する科学的研究を実施し、独創的な先端的探究を行うことができる。臨床心理学領域では、人間の心と行動に関する研究と臨床的介入を実施し、心の健康の保持と増進に寄与することができる。</u> (2)修士（人間科学） 実践人間科学領域では、その教育目標を達成することで修士（人間科学）の学位を授与する。<u>実践人間科学領域では、現場にある課題を認識し、理論と実践と研究の架橋と往還を実践することで、その解決に貢献することができる。</u> ①研究・実践を進めるために、各領域に共通する基本的な知識に関する科目を共通科目に設定します。
---	---

況、現場に埋め込まれている課題を認識し、 協働で実践知として吟味するカンファレンス 形式の講義により、理論と実践の架橋と往還 を<u>実践していく。</u>	②人に関する学問の広がりと深まりを追求する 修士論文を執筆するために、演習科目を設定 します。 ③心理学と人間科学およびその隣接領域の科学的 知識と実践的知識にもとづいて総合的に 人間を理解し、理論と研究と実践を相互還流 させる高度な技能と対応力を身につけるため に、領域専門科目を設定します。 ④国家資格である公認心理師を養成するため に、国家試験受験資格に対応した科目を公認 心理師科目共通実習および領域専門科目に設 定します。
---	---

【資料12】人間科学研究科 授業科目の新旧表

2022年度カリキュラム			変更内容	2026年度カリキュラム		
科目名	科目区分	履修区分		科目名	科目区分	履修区分
心理学統計法（基礎）	共通科目	選択		心理学統計法（基礎）	共通科目	選択
心理学統計法（展開）	共通科目	選択		心理学統計法（展開）	共通科目	選択
心理学研究法	共通科目	選択		心理学研究法	共通科目	選択
質的研究法	共通科目	選択		質的研究法	共通科目	選択
心理プラスCom（PBL）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	区分変更	心理プラスCom（PBL）	共通科目	選択
社会のなかの人間科学	共通科目	選択		社会のなかの人間科学	共通科目	選択
人間科学特論	共通科目	選択		人間科学特論	共通科目	選択
演習Ⅰ	専門科目 演習	必修		演習Ⅰ	専門科目 演習	必修
演習Ⅱ	専門科目 演習	必修		演習Ⅱ	専門科目 演習	必修
演習Ⅲ	専門科目 演習	必修		演習Ⅲ	専門科目 演習	必修
演習Ⅳ	専門科目 演習	必修		演習Ⅳ	専門科目 演習	必修
心理実践実習Ⅰ	専門科目 公認心理師	選択	科目名称変更	公認心理師実践Ⅰ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師共通実習	選択
心理実践実習Ⅱ	専門科目 公認心理師	選択	科目名称変更	公認心理師実践Ⅱ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師共通実習	選択
公認心理師カンファレンスⅠ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師	選択		公認心理師カンファレンスⅠ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師共通実習	選択
公認心理師カンファレンスⅡ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師	選択		公認心理師カンファレンスⅡ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師共通実習	選択
公認心理師学外実習Ⅰ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師	選択	統合	公認心理師学外実習Ⅰ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師共通実習	選択
公認心理師学外実習Ⅱ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師	選択	統合	公認心理師学外実習Ⅱ（心理実践実習）	専門科目 公認心理師共通実習	選択
基礎心理学特論	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	基礎心理学特論	専門科目 領域専門 心理学領域 基礎心理学	選択
認知心理学特論	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	科目名称変更 区分変更	知覚・認知心理学特論	専門科目 領域専門 心理学領域 基礎心理学	選択
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域 教育・発達心理学	選択
発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域 教育・発達心理学	選択
老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域 教育・発達心理学	選択
教授・学習学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	教授・学習学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域 教育・発達心理学	選択
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 心理学領域 教育・発達心理学	選択
学校カウンセリング研究（教育分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	区分変更	学校カウンセリング研究（教育分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域 教育・発達心理学	選択
臨床心理学基礎実習	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修		臨床心理学基礎実習	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修
臨床心理学特論Ⅰ	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修		臨床心理学特論Ⅰ	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修
臨床心理学特論Ⅱ	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択		臨床心理学特論Ⅱ	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修		臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修
臨床心理査定演習Ⅱ	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択		臨床心理査定演習Ⅱ	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修		臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修
臨床心理面接特論Ⅱ	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択		臨床心理面接特論Ⅱ	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択		精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択
心理療法特論	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択		心理療法特論	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択
グループアプローチ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択	科目名称変更	グループ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択
司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 多様性社会実践	選択
社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	選択	区分変更	社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 多様性社会実践	選択
コミュニティ心理研究	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	科目名称変更 区分変更	コミュニティ心理研究（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 多様性社会実践	選択
健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 対人援助実践	選択
認知行動療法研究（心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	区分変更	認知行動療法研究（心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 対人援助実践	選択
臨床心理地域援助研究	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	科目名称変更 区分変更	ストレスとトラウマ研究	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 対人援助実践	選択
ナラティブとケア	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	区分変更	ナラティブとケア	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 対人援助実践	選択
社会心理学特論	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	社会心理学特論	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 社会心理学実践	選択
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	区分変更	産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 社会心理学実践	選択
実践人間科学特論	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	区分変更	実践人間科学特論	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 社会心理学実践	選択
障害児教育研究（教育分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	統合	-	-	-
-	-	-	新設	国際プロジェクト研究	共通科目	選択
-	-	-	新設	フィールド実践研究	共通科目	選択
-	-	-	新設	認知神経科学特論	専門科目 領域専門 心理学領域 基礎心理学	選択
-	-	-	新設	心理アセスメント特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	専門科目 領域専門 心理学領域 教育・発達心理学	選択
-	-	-	新設	心理特別実習（心理実践実習）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修
-	-	-	新設	臨床心理実習	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修
-	-	-	新設	文化人類学特論	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 多様性社会実践	選択
-	-	-	新設	多様性社会実践特論	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 多様性社会実践	選択
-	-	-	新設	表現と支援	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 対人援助実践	選択
-	-	-	新設	応用行動分析	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 対人援助実践	選択
-	-	-	新設	対人援助実践特論	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 対人援助実践	選択
-	-	-	新設	行動科学研究	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 社会心理学実践	選択
-	-	-	新設	質的探求と社会実装	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 社会心理学実践	選択
-	-	-	新設	社会心理学実践特論	専門科目 領域専門 実践人間科学領域 社会心理学実践	選択
教育評価・心理査定特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	廃止	-	-	-
臨床心理学研究（心理支援に関する理論と実践）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	廃止	-	-	-
生徒指導・進路指導特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 心理学領域	選択	廃止	-	-	-
臨床心理学実習（心理実践実習）	専門科目 領域専門 臨床心理学領域	必修	廃止	-	-	-
ソーシャルワーク研究（福祉分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	廃止	-	-	-
対人援助技術研究（心理的アセスメントに関する理論と実践）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	廃止	-	-	-
司法臨床研究（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	廃止	-	-	-
ユースワーク研究	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	廃止	-	-	-
インターンシップ	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	選択	廃止	-	-	-
学外実習	専門科目 領域専門 実践人間科学領域	必修	廃止	-	-	-

【資料13】

＜デザイン・アート学研究科修士課程の人材育成目的、3 ポリシー＞

【人材育成目的】

デザイン・アート学研究科は、人工知能や仮想・複合現実などのデジタル情報技術の発展を背景に、人間本来の思考と創造性のあり方自体が問い直されるべき社会的要請に応えるために、本学園の根幹である「建学の精神」、「教学理念」、「立命館憲章」に則り、長い歴史と重厚な文化のもとで革新的な知が創出されてきた京都という都市において、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合して高度に発揮しながら他者と積極的に協働し、その能力の社会的意義と効用を評価することによって、多様な社会や組織において、フィジカルからデジタルに拡張し融合した未来社会を感性豊かに創造できる研究者および高度専門職業人を育成する。

●卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

デザイン・アート学研究科は、研究科則に規定する修了要件(必修科目を含む 30 単位以上を修得し、かつ修士論文または課題研究の審査に合格すること)を満たし、以下の資質・能力を備えた者に対して、「修士(デザイン・アート学)」の学位を授与する。

① 知識・技能

- (1) フィジカルからデジタルに拡張し融合したデザイン・アートに関わる専門的な知識を戦略的に活用することができる。
- (2) フィジカルからデジタルに拡張し融合したデザイン・アートに関わる専門的な技能を戦略的に活用することができる。
- (3) 多様な社会や組織において、フィジカルからデジタルに拡張し融合した未来社会を感性豊かに創造できる。

② 思考力・判断力、表現力等の能力

- (1) 美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合して高度に発揮することができる。
- (2) 多様な社会や組織において、デザイン・アートに関わる専門的な知識と技能を戦略的に活用してリーダーシップを発揮できる。
- (3) 多様な社会や組織において、新たな社会活動を実践的に前進させ、組織運営を具体化できる。

③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- (1) 他者と積極的に協働し、デザイン・アートに関わる社会実践における新たな問題を汲み上げることができる。

- (2) 他者と積極的に協働し、新しい研究領域を開拓してその対象や方法論を提起することができる。
- (3) 他者と積極的に協働し、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合して発揮される能力の社会的意義と効用を評価することができる。

●教育課程・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【カリキュラム構成の方針】

人材育成目的に掲げた人材を育成するために、デザイン・アート学研究科のカリキュラムは、研究科則に規定される所定単位を修得することを前提に、以下の研究指導科目群、新領域デザイン・アート学基盤科目群、新領域デザイン・アートランゲージ科目群により構成される。

○研究指導科目群

ディプロマ・ポリシー(DP)に設定した以下の能力を育成するために、研究指導科目群を開設する。

- ・他者と積極的に協働し、デザイン・アートに関わる社会実践における新たな問題を汲み上げることができる。(DP③ (1))
- ・他者と積極的に協働し、新しい研究領域を開拓してその対象や方法論を提起することができる。(DP③ (2))
- ・他者と積極的に協働し、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合して発揮される能力の社会的意義と効用を評価することができる。(DP③ (3))

特にここで多様な社会実践者および研究者との対話によって理解されるあるべき社会のビジョンとその実現のための方法論は、フィジカルからデジタルに拡張し融合した未来社会を感性豊かに創造する役割を担う修了後のキャリア形成に資するものとなる。

○新領域デザイン・アート学基盤科目群

ディプロマ・ポリシー(DP)に設定した以下の能力を育成するために、新領域デザイン・アート学基盤科目群を開設する。

- ・美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合して高度に発揮することができる。(DP② (1))
- ・多様な社会や組織において、デザイン・アートに関わる専門的な知識と技能を戦略的に活用してリーダーシップを発揮できる。(DP② (2))
- ・多様な社会や組織において、新たな社会活動を実践的に前進させ、組織運営を具体化できる。(DP② (3))

この科目群では、デザイン・アートに関する研究領域に特化した研究方法論やリサーチ手法、アカデミックライティングなどを学ぶ。

この科目群では、研究指導を受けながら、修士論文または課題研究の完成に向けた活動に取り組む。

特にここで多様な社会実践者および研究者との協働によって身につけられる社会的実践スキルは、修了後に多様な社会や組織において活躍するためのキャリア形成に資するものとなる。

○新領域デザイン・アートランゲージ科目群

ディプロマ・ポリシー(DP)に設定した以下の能力を育成するために、新領域デザイン・アートランゲージ科目群を開設する。

- ・フィジカルからデジタルに拡張し融合したデザイン・アートに関わる専門的な知識を戦略的に活用することができる。(DP① (1))
- ・フィジカルからデジタルに拡張し融合したデザイン・アートに関わる専門的な技能を戦略的に活用することができる。(DP① (2))
- ・多様な社会や組織において、フィジカルからデジタルに拡張し融合した未来社会を感性豊かに創造できる。(DP① (3))

この科目群は、「理論」と「技能」に区分され、「理論」では、意味・情報・環境・社会の4視座から学び、「技能」では、アートの視座からデジタル造形表現やフィジカル造形表現を学ぶことに加え、理系視座・文系視座の双方からデザイン・アートに関わる実践の評価法について学ぶ。なお、理論と技能の双方に社会実践スキル科目(デザインリーダーシップ論やファシリテーションデザイン演習)を配置する。

特にここで身につけられるデザイン・アートに関わる知識と技能およびその戦略的な活用方法は、修了後に職域を問わず多様な社会や組織において活躍するためのキャリア形成に資するものとなる。

【学修方法と学修成果の評価方針】

本研究科のカリキュラムは、キャンパス内／まち・地域内に留まらず、「社会全体がラーニングブレイス」というコンセプトに基づき、大学の学びをキャンパスやまち・地域の外へと広げ、多様な社会での研究の「場」、企業や社会との連携を重視した実践的な研究の「機会」を創出するとともに、デジタル・インフラもフルに活用した多様な学びと研究の手法を取り入れながら実践される。

研究指導科目群では、修士論文または課題研究の完成に向けた活動に取り組むため、学修の成果を主に研究進捗報告、口頭発表、研究・制作プロセスをまとめたポートフォリオなどによって評価する。

新領域デザイン・アート学基盤科目群および新領域デザイン・アートランゲージ科目群では、プロジェクトベースの探究活動を基本とし、グループワーク、実習、フィールドワークなどの実践的な学びを通じて、学生が美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮できるよう設計する。これらの科目では、学修の成果を主に制作物やその制作プロセスをまとめたポートフォリオ、プロジェクト成果物、論文、報告書、展示・プレ

ゼンテーション、口頭試問などによって評価する。

< 修士論文の評価基準 >

1. 研究課題がユニークであるか(研究課題の独創性)
2. 研究目的が学術的および社会的に意義あるものになっているか(研究目的の学術的および社会的意義)
3. 先行研究・事例が検討・吟味され、到達点が踏まえられているか(先行研究・事例との関連性)
4. 調査・実験・制作・分析・評価などにおいて方法が適切か(研究方法の適切性)
5. 研究成果が学術的および社会的に有用であるか(研究成果の有用性)
6. 論理的な構成となっているか(論理の一貫性)
7. 論文として一定の書式に準拠した書き方(表現、表記、注、引用、文献、形式などを含む)がなされているか(書式・文量の適切性)
8. 口頭試問において論文内容の説明および質疑応答が適切に行えたか(口頭試問における論文内容についての応答の適切性)

< 課題研究の評価基準 >

1. 課題研究は、「制作物」とそれについて論じた「報告論文」を提出するものとする。
2. 「制作物」は、実践を含み、研究が扱う領域や実務に対して実効性のある課題解決や先見性のある問題提起がなされ、実社会に対して新たな価値のある提案と考察が行われているかどうかを評価する。
3. 「報告論文」の評価基準は修士論文評価基準に準じる。

●入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

【求める学生像】

デザイン・アート学研究科では、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

① 知識・技能

美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮し、フィジカルからデジタルに拡張し融合したデザイン・アートに関わる専門的な知識と技能を戦略的に活用するための、学部卒業レベルの知識と技能を有している者。

② 思考力・判断力、表現力等の能力

美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮するために、デザイン・アートに関わる専門的な知識と技能に基づく意思決定や行動によって、多様な社会や組織においてリーダーシップを発揮する意欲と基礎力を持つ者。

③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に発揮し、他者との協働とその省察を通じた社会実践活動を通して、デザイン・アート領域における新たな問題を汲み上げ、新しい研究領域を開拓するための努力を惜しまない者。

【資料 14】デザイン・アート学研究科 科目構成

2 年制科目構成

科目区分		1 回 生		2 回 生	
		1 セメス ター	2 セメス ター	3 セメス ター	4 セメス ター
研究指導科目			●新領域デザイン・アート学研究Ⅰ②	●新領域デザイン・アート学研究Ⅱ②	●新領域デザイン・アート学研究Ⅲ②
新領域デザイン・アート学基盤科目群		●新領域デザイン・アート学の探究② ●新領域デザイン・アート学特論Ⅰ② ●新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究Ⅰ②	●新領域デザイン・アート学特論Ⅱ② ●新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究Ⅱ②		
新領域 デザイン・アート ランゲージ 科目群	理論	戦略的デザインマネジメント論② / デジタルメディアデザイン論② / 戦略的アートマネジメント論② / デジタルデザインヒューマニティーズ論② / グローバルデザイン論② / デザインリーダーシップ論② / ローカルデザイン論② / コンピューティングデザイン論② / デジタルデータデザイン論② / 新領域デザイン・アート学特殊講義②			
	技能	ファシリテーションデザイン演習② / デジタルアーカイブ演習② / 質的デザイン評価法演習② / デザイン科学評価法演習② / デジタルデザイン表現演習②			
		デザインフィールドワーク演習② / デジタルアート表現演習② / フィジカルアート表現演習② / 新領域デザイン・アート学特殊演習②			

●… 必修科目

○内の数字は単位数

1 年制科目構成

科目区分		1 回 生	
		1 セメス ター	2 セメス ター
研究指導科目		●新領域デザイン・アート学研究A②	●新領域デザイン・アート学研究B②
新領域デザイン・アート学基盤科目群		●新領域デザイン・アート学特論Ⅰ② ●新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究Ⅰ②	●新領域デザイン・アート学特論Ⅱ② ●新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究Ⅱ②
新領域 デザイン・アート ランゲージ 科目群	理論	★戦略的デザインマネジメント論② ★デジタルメディアデザイン論② ☆戦略的アートマネジメント論② ☆デジタルデザインヒューマニティーズ論②	●グローバルデザイン論② ●デザインリーダーシップ論② ●ローカルデザイン論② 新領域デザイン・アート学特殊講義②
	技能	ファシリテーションデザイン演習② デジタルアーカイブ演習②	質的デザイン評価法演習② デザイン科学評価法演習② デジタルデザイン表現演習②
		デザインフィールドワーク演習② デジタルアート表現演習② フィジカルアート表現演習②	新領域デザイン・アート学特殊演習②

★… 新領域デザインストラテジー(NDS)必修科目

☆… 新領域アートディレクション(NAD)必修科目

●… 新領域デザインストラテジー(NDS)、新領域アートディレクション(NAD)必修科目

○内の数字は単位数